

供覽

内閣書院



内閣書記官



大正九年四月一日陸軍省印刷



米國國防會議第一回年報

臨時軍事調査委員

九	一	冊	十類
國	架	冊	

国立公文書館	
分類	
排架番号	2 A
	34-6
	単 2147

2148

陸乙三七

配賦標準票

大正九年五月

一 米國國防會議第一回年報

(五〇四三〇三六)

係理方主、米國政府

(本票ハ此處ヨリ分發シ本會ヨリ直接送付ヲ受ケルニ係リニ保管シ置クコト)

二部

米國國防會議第一回年報

要旨

本年報ハ米國參戰當初三、四箇月間ニ於ケル國防會議及從屬諸機關ノ創設、任務及事業等ニ就キ其ノ大網ヲ記述シタルモノニシテ帝國ニ於ケル軍需工業及交通動員等ノ計畫實施ニ資スル所甚大ナルヘキヲ信シ茲ニ之ヲ譯述ス

要旨

米國國防會議第一同年報

目次

第一章 國防會議事業ノ概要	一頁
第二章 國防會議設置ニ關スル法律規定	二
第三章 會務ノ執行	五
第四章 航空機製作部	五
第一節 設立	五
第二節 陸海軍ノ協力及航空機製造業ノ現状	八
第三節 製造計畫	八
第四節 豫算及機體問題	九
第五節 自由發動機	一二
第六節 飛行機製造用材	一三
第七節 價格	一五
第八節 飛行場	一六
目次	

第五章 軍需品總務部	一七
第一節 設立及業務一般	一七
第二節 兵器彈藥ノ製造及各種材料ノ獲得	一八
第三節 戰時建築委員會	二〇
第四節 貯藏委員會	二三
第六章 軍需品規格部	二八
第七章 採炭委員會	三〇
第一節 創立及調査	三〇
第二節 石炭分配能率ノ増進及供給問題	三二
第三節 勞力及最高價格	三五
第八章 商業經濟部	三七
第一節 創立及事業一般	三七
第二節 賣殘麵粉返戻制廢止	三八
第三節 商業勞力ノ節約	四〇
第四節 羊毛及皮革保存運動	四二

第九章 州防務統轄課	四四
第十章 婦人國防委員會	四八
第十一章 國民科學研究會	五二
第十二章 海運委員會	五六
第十三章 內國水路輸送委員會	五七
第十四章 工業登錄課	五七
第十五章 各省交渉委員會	五八
第十六章 米國商業會議所協同委員會	五八
第十七章 統計課	五九
第十八章 發明部	六一
第十九章 顧問委員會部屬諸委員會	六一
第一節 鐵道輸送委員會	六一
第一款 設立	六一
第二款 各種分科委員會	六三
第三款 輸送ノ整理及軍隊輸送	六四

第四款 鐵道一般狀態及其他	六六
第二節 電信電話委員會	六八
第一款 總說	六八
第二款 設備	七〇
第三款 給養委員會	七一
第四節 原材料委員會	七三
第五節 技術及教育委員會	七五
第六節 勞働委員會	七七
第一款 設立	七七
第二款 英國勞働使節	七八
第三款 國民委員會	八〇
一 國民勞働賃金及時間委員會	八〇
二 國民仲裁及和解委員會	八〇
三 國民安全勞働委員會	八〇
第四款 國民委員會部屬會	八一

四

一 被召集者家族救護部會	八一
二 衛生部會	八二
三 爆發物製造部會	八二
四 點燈部會	八二
五 工業雜役部會	八二
六 溫度及換氣法部會	八三
七 飲料水部會	八三
八 職業病部會	八三
九 家庭患者預所部會	八三
一〇 醫務監督部會	八四
一二 工業教育部會	八四
一三 家庭部會	八五
一三 休養部會	八五
一四 公衆衛生教育部會	八五
一五 女工部會	八六

目次

五

一六 不熟練職工保護部會	八七
第七節 自動車輸送委員會	八八
第八節 醫事總務部及醫事課	九〇
第一款 醫事總務部	九〇
第二款 醫事課	九一

米國國防會議第一回年報

千九百十七年十一月二十日
於華盛頓國防會議

第一章 國防會議事業ノ大要

國防會議カ産業動員上本年六月末日迄ニ達成セル事業ノ大要左ノ如シ

- 一 原料及製品供給力ヲ増進シ且行政各部需品ノ購買ヲ統一シ各部要求ノ調和ヲ圖ル
- 二 軍需品製造ニ使用スル工具及器具、機械ニ關シ標準規格ヲ定ムルノ端緒ヲ開ク
- 三 運輸通信機關ヲ軍事勤務ニ協同セシムルニ必要ナル編制ヲ整備ス
- 四 各省ト共ニ空中軍建設計畫ニ著手シ且此ノ計畫ヲ工業上實行可能ナラシム
- 五 醫事界ヲ戰爭目的ノ爲適當ナル如ク組織ス
- 六 商業界ヲ戰爭遂行上ノ要求ニ適應セシムル如ク指導シ且人員、裝備品及補給品ヲ政府ノ必要ニ從ヒ利用シ得ル如ク補助ス
- 七 但シ之カ爲國民ニ不必要ナル迷惑又ハ負擔ヲ課シ或ハ營業ノ根本ヲ破壊セルコトナシ
- 八 政府ノ必要トスル自動車運輸事業ヲ發達容易ナラシメ且獎勵ス
- 九 米國勞働界指導者ト關係雇主、工業家並公共團體主腦者トノ協同組織ヲ完成シ戰爭遂行ノ爲國內勞働軍ノ登錄ニ便ス

九 科學上ノ研究ヲ促進シ技術界及教育界ヲシテ相協力シテ國防事業ニ努力集中セシムル如ク指導ス

十 米國婦人ノ努力ヲ統一シ且戰爭遂行ノ目的ニ合スル如ク之ヲ指導ス

十一 燃料生産ヲ増進シ且燃料配給ヲ適切ナラシムル如ク石炭生産界ヲ組織ス

十二 戰爭遂行上各州ノ努力及活動ヲ中央部ニテ統制シ一貫セル指導ヲ爲ス

之ヲ要スルニ國防會議カ有ラユル國家資源ヲ動員スル爲達成セル事業ハ多様ナルモ畢竟其ノ目的ハ各種各様ノ産業要素ヲ巧ニ協同セシメ其ノ活動ヲ政府ノ一定用途ニ集中セシムル如ク指導スルニ在リ

第二章 國防會議設置ニ關スル法律規定

國防會議ハ千九百十六年八月二十九日議會ノ協賛ヲ得タル法律ニ其ノ立法ノ根據ヲ有スルモノニシテ翌年三月三日ニ至リ其ノ組織全ク完成セリ本會議ノ目的事業ハ同法ノ規定ニ依ルトキハ主トシテ國民ノ安寧幸福ノ爲ニスル産業及資源ノ協調並緊急ノ事變ニ際シ國家ノ資源ヲ直ニ集中利用シ得ヘキ關係ヲ生成セシムルニ在ルモノニシテ本會議ハ之ニ則リ顧問委員會其ノ他ノ補助機關ヲ率キテ米國ノ對獨參戰以來政府ヲ翼賛シテ國家總動員ノ任ニ當レリ

國防會議ノ職權及任務ノ法律的規定

國防會議ノ職權權限ハ軍事豫算法(H、R第一七四九八號)第二條ニ之カ詳細ノ規定ヲ爲ス今其ノ明文ヲ掲クレハ左ノ如シ

目的及會員ノ任命

第二條 國民ノ安寧幸福ノ爲産業及資源ノ協調ヲ圖ル爲茲ニ國防會議ヲ組織シ陸軍卿、海軍卿、內務卿、農務卿、商務卿及勞働卿ヲ以テ其ノ會員トス

國防會議ハ産業、公益又ハ天然ノ資源開發ニ關シ專門ノ智識ヲ有シ又ハ特殊ノ技能ヲ有スル者ニシテ以下定ムル所ノ職務ヲ遂行シ得ルモノト認メタルトキハ之ヲ大統領ニ推舉シ大統領其ノ任命ヲ爲スモノトス

顧問委員會

顧問委員會ノ委員ハ無給トス但シ委員會ニ參列中又ハ其ノ會務ニ屬スル調査ヲ爲ス場合ニ於ケル生計及旅費ノ實費ハ之ヲ支給ス

顧問委員會ハ國防會議ノ召集又ハ其ノ會務執行ノ爲國防會議ニ於テ定ムル規則ニ從ヒ開會スルモノトス

調査スルキ事業

國防會議ノ職務ハ左記諸項ニ關スル調査ヲ監督指導シ且之ニ關シ大統領及行政長官ニ其ノ意見ヲ建白スヘキモノトス

左記

- 一 軍隊及軍需品ヲ迅速ニ防禦地點ニ集中スヘキ鐵道線ノ配置ト合衆國國境トノ關係
- 二 鐵道ノ延長、幹線及支線ノ敷設ニ對スル軍事ト産業及商業上トノ協調
- 三 水路ノ利用

四 陸海軍用國防資源ノ動員

五 外國貿易杜絶中ニ於ケル軍隊並國民ノ維持生存ニ必要ナル物品原料ノ國內の生産増加

六 海上輸送ノ發展

七 軍需品ノ生産額生産地生産ノ方法手段及其ノ供用力ノ研究

八 陸軍及其ノ他ノ官衙用需品及之ニ關スル要求ヲ生産業者ニ了知セシムルコト

九 戰時速ニ國家資源ヲ集中利用スルヲ得ヘキ關係ヲ生成スルコト

國防會議ハ大統領ノ裁可ヲ經會務ノ執行並顧問委員會ノ事業ニ關シ規則ヲ設ケ以テ委員會ノ専門的智識カ適當ノ調査研究ニ依リテ發揮セラレ國防會議ノ議事及報告ニ資セシムルコトヲ要ス

國防會議ハ専門ノ調査ヲ爲サシムル爲技師ヲ招聘シ又ハ是等技師ヲ指導スヘキ特殊ノ技能アル者ヲ以テスル無給ノ委員會ヲ設ケ之ヲ以テ其ノ附屬機關トスルコトヲ得

費用

國防會議顧問委員會又ハ附屬機關ノ行フヘキ實驗及調査事業ノ爲主任者、技師、事務及需用品ニ要スル費用並顧問委員會ノ委員又ハ附屬機關委員及屬員カ委員會ニ參列シ又ハ附屬機關ニ出頭スルニ要スル費用トシテ國庫剩餘金ヨリ二十萬弗若ハ其ノ以上ノ必要ナル金額ヲ支出スルモノトス

報告

顧問委員會及一切ノ附屬機關ハ國防會議ニ報告ヲ提出シ國防會議ハ時々其ノ専門的研究ノ結果ヲ大統領及各省長官ニ報告スルト共ニ聯邦議會ニ對シ大統領ヲ經テ國防會議及附屬機關活動ノ詳細並其

ノ支出ノ細目ニ關シ報告ヲ爲スコトヲ要ス但シ大統領ノ定メタル金額ノ限度内ニ於ケル機密費ニシテ大統領ニ於テ適當ト認メタルモノハ單ニ其ノ總額ヲ計上シ費目ノ款項ヲ別タサルコトヲ得

第三章 會務ノ執行

這次歐洲大戰ハ前古未會有ナル機械力戰爭ヲ演出シ戰略ノ千變萬化及戰爭用機械ノ迅速ナル改良ハ勢ヒ軍國ノ産業組織ヲ之ニ應シ急變セシメタルノミナラス諸般ノ制度ニ殆ト前例ヲ見サル改變ヲ加フルニ至ラシメタリ而シテ戰局ノ進展ニ伴ヒ兵員ノ増加及全然豫想セサル新方面ノ開拓等此等新ナル要求ニ呼應シ絶エス迅速ニ處理シ得タルハ一ニ國防會議ノ努力ニ依ルモノニシテ從テ其ノ制度ハ膨脹又膨脹時局ノ必要ニ應ジテ轉化發展ヲ重ヌルニ至リシハ自然ノ數ニシテ而モ其ノ間又自ラ紛雜ヲ避ケ協調ト統制ヲ失ハサラムコトニ努メタリ

斯ノ如キ場合ニ處シ膨大ニシテ複雑ナル組織ヲ有スル國防會議ノ遂行セル事業ハ實ニ莫大ナル力故ニ之ヲ詳述スルコト頗ル困難ナリト雖其ノ大綱ヲ舉クレハ次章以下記述スル所ノ如シ

第四章 航空機製作部

第一節 設立

航空機製作部ハ千九百十七年五月十六日國防調查會ノ決議ニ基キ設置セラレタルモノニシテ同日ヨリ七月一日ニ至ル間ニ於ケル活動ノ大要ハ之ヲ後ニ述フルコトトシ其ノ決議ヲ舉クレハ左ノ如シ

航空機製作部ニ對シ
航空顧問委員會ノ
決議

國民航空顧問委員會ハ國防會議ニ對シ航空機製作部ナル一部ヲ設置セムコトヲ建言ス同部ノ權限ハ米國ニ於ケル航空機製造ノ量ノ關係ヲ考究スルト共ニ陸海軍ノ製造並其ノ要請ニ對スル供給關係各部ト協同スルニ在リ而シテ其ノ各部ニ對スル援助ノ方法ハ次ノ如シ

- 一 技術 陸海軍航空機設計部、私立個人等ノ製造業者研究所ト協同シ以テ飛行術及著陸術ノ進歩並航空機ノ新規改良ヲ期スルコト
- 二 規格ノ標準決定 航空機ノ製造力ヲ最大能率ニ増進セシムヘキ機型及材料等ノ標準ヲ決定スルコト

- 三 製造 各種航空機製造ニ使用スル原料並材料ノ検査ヲ爲スト共ニ政府ノ所要機型ヲ必要數量マテ購入スルヲ得ヘキ計畫ノ立案及實行ヲ援助スルコト

- イ 航空機ニ關スル事項ノ爲米國ニ駐在スル聯合國士官ト共ニ其ノ設計ニ協力スルコト
- ロ 航空機ノ種類ニ關シ米國ニ於ケル製造工場ノ組織、能力及數量ニ適應スル協定ヲ爲スコト
- ハ 製造家ノ金融力大注文ヲ引受クルニ不十分ニシテ前渡資金ヲ必要トスルトキ其ノ貸付又ハ原價歩割増制ニ關スル協定ヲ爲スコト

- ニ 國家ノ需要ニ必要ナル新資源開拓ノ爲低能率工場ヲ利用スルコト
- 四 検査 陸海軍審査部ト協力シ以テ航空機検査ニ對スル組織、標準ヲ成ルヘク齊一ナラシムルコト

- 五 航空機學校 陸軍部内ニ於ケル敷地面積ノ決定アリタルトキハ土地ノ買収、借地、其ノ地均並建物建設ニ關シ指導ヲ爲スコト

- 六 製品格納場 敷地決定ヲ俟テ借地並必要建物ノ建設ニ關シ指導ヲ爲スコト

- 七 優先權 國防會議ニ於テ決定シタル一般方針ニ基キ各部間ニ於ケル航空機原料ノ優先引渡ニ關シ指圖スルコト

當部ノ權限ハ上掲ノ如ク全ク非軍事的工業方面ニ限定セラル而シテ其ノ部員ノ五月十六日ニ於ケル現在左ノ如シ

部員

議長 「ハワード、イー、カフイン」

通信兵團長陸軍少將

「ジョージ、オー、スクワイヤ」

海軍造兵局長海軍少將

「デーヴィッド、ダブリュー、デーライ」

「エス、デー、ワルドン」

「イー、エー、デイリッ」

「アール、エル、モントゴメリー」

幹事「エー、ジー、ケー、ブル」

第二節 陸海軍ノ協力及航空機製造業ノ現状

海軍専用
工場ノ配
當

陸海軍トノ協同ハ航空機製作部ノ一美點ト云フヘク海軍ニ於ケル航空機製造規模ハ他ノ何レニ比スルモ最小ナリシニ拘ラス當部ハ海軍ノ製造企畫ノ爲慎重ノ調査ヲ爲シ且海軍大臣ノ要請ニ依リ特ニ數箇工場ヲ割キ以テ海軍ノ専用ニ供シタリ

航空機製
造業ノ現
狀

當部ノ目的トシタル所ハ古今未曾有ノ規模ヲ有スル事業ヲ建設セムトスルニ在リタルコトニシテ之カ爲先ツ當時ニ於ケル製造能力ヲ慎重調査スルノ必要ヲ感シ實行ニ著手シタリ蓋シ米國ニ於ケル工業上各般ノ發達ハ頗ル注目ニ値スルモノアリト雖航空機製造事業ニ至リテハ其ノ發達著シク幼稚ニシテ賣先ハ單ニ政府ノミニ止マリ何等他ノ工業ニ見ルカ如キ商業的基礎ヲ有セサルヲ以テ相當ノ利潤ヲ得ルノ見込ナキノミナラス危險ナル放資額頗ル多額ニ上レリ

第三節 製造計畫

計畫ノ基
礎

當部ノ航空機製造事業ニ關スル計畫ハ陸海軍大臣ニ提出シタル陸海軍共同技術審査部ノ報告ヲ基礎トシ(右審査部ハ陸海軍中航空機事項ノ精通者各三人ヨリ成リ部員ハ夫々直接ニ陸軍大臣又ハ海軍大臣ニ對シテ責任ヲ負フモノニシテ此ノ組織ハ即チ陸海軍協同範圍ノ増加シツツアルヲ示ス一證左タリ)其ノ製造方針ハ聯合國ノ實驗及合衆國ノ欲求ヲ主トセリ抑航空機問題ハ初夏ノ候米國ヲ訪問シタル歐洲諸國

航空機製
造計畫ニ
對スル陸
軍作務部
ノ意見書

派遣員等ノ力説シタル所ニシテ當時米國ニ於テハ航空機製造ニ異常ノ成績ヲ舉ゲ得ヘキ何等ノ確信ナカリシモ忽ニシテ大規模計畫ノ案ヲ認定シテ直ニ參謀本部內陸軍大學校ノ協賛ヲ求メタルニ同校ハ千九百十七年六月十五日航空機製作部長「ハワード、イー、カッフィン」ニ對シ左ノ覺書ヲ交付シ來レリ

一 製作部ノ航空機製造計畫ニ就テハ他方砲兵材料、機關銃、牽引自動車等ノ製造ト相關聯スル程度如何ヲ研究スルコト

二 從業員ハ前號諸兵器製造ニ影響ヲ與ヘスシテ之ヲ求ムルヲ得ヘキヤ否ヤ

三 是等從業員並材料ニ關シ國防會議ノ軍需品總務部及優先權部ノ決議證ヲ得ヘキヤ否ヤ

航空機製
造計畫ニ
對スル國
防會議軍
需品總務
部ノ意見
書

當部ハ即チ此等勸告ヲ容レ更ニ軍需品總務部ト交渉ノ結果翌十六日同部ヨリ該製造計畫ハ國家ノ製砲能力、機關銃製造力並牽引自動車製造案ト何等相抵觸スル所ナキ旨ノ回答ヲ得タルノミナラス航空機製造計畫ニ對シ機關銃製造餘力ヲ供與スヘク之ニ關シテハ軍需品總務部ノ機關銃委員會其ノ調査ニ任シ又從業員ニ關シテハ他ノ軍事工業ニ何等影響ナキ旨ノ言明ヲ得タリ

第四節 豫算及機體問題

職員及費用ハ最重要問題ニシテ通信兵團飛行班ハ即チ當部諸員ノ助力ヲ受ケ六月三十日一法案ヲ草シ擔當職務ノ規程及千九百十八年六月三十日ニ至ル十二箇月間ノ費用六億四千萬弗ノ要求ヲ計上シタルカ之ニ對シ上下兩院陸軍委員會ハ當部員ノ出席ヲ求メ通信兵團長「スクワイヤ」將軍及司令部附外國武官亦

米國ニ於
テハ發動
機ノ製造
ニ失敗セ
リ

機體ノ建造又ハ英、佛式設計及仕様ノ模倣ハ比較的容易ナルモ外國型發動機ノ製造ニ當リ之ヲ自國工場ノ技術及方法ニ適合セシムルコト頗ル困難ニシテ其ノ製品ハ不精巧且不完全ヲ免レス是決シテ米國勞働者ノ熟練カ佛、伊兩國ニ於ケル勞働者ニ比較シテ劣レルニアラスシテ唯前記兩國工場ノ技術方法カ米國ノ夫レト甚シク面目ヲ異ニスルニ因ルニ外ナラサルナリ

當部ハ固ヨリ如上ノ困難ヲ熟知セルヲ以テ直ニ出來得ル限り多數ノ英、佛式最良機關ノ明細書ヲ取寄セ最精巧ナル佛國式機關ノ一二對スル設計ヲ以テ之ヲ實際ニ經驗スルコトトシ材料、仕様其ノ他一切ノ青

製造上達
著セル諸
問題

次ニ機體製造問題大體方針トシテハ機體及其ノ豫備部分ニ對スル注文ヲ多數小工場ニ散布スルハ仕事ノ監視ニ非常ノ困難ヲ感スルヲ以テ不得策トス

製造地ニ就テモ豫メ地理的考慮ヲ加フルコトヲ要シ該地ニ於テ使用スル數量以上ノ製造ヲ爲サシムルカ
如キハ策ノ得タルモノニアラサルコト明白ノ事理トス

工場適否
決定法

飛行機ノ
製造ノ
組合
組立

發動機ノ
製造方式

標準型式
ノ採用
自由
機ノ完成

飛行機製造工場ノ適否決定ニハ頗ル苦心ヲ費シタルカ多クハ其ノ財政狀態及擔任職員等一切ヲ記載セル
登録ニ依リ技師ヲ工場ニ派遣シ機體製造ノ立場ヨリ觀タル詳細ノ報告ヲ爲サシメタリ
合衆國カ參戰ノ態度ヲ決定シテ西歐戰場ニ行動スルコトナルヤ次ノ問題ハ直ニ當部ニ於テ決定スヘキ
問題ト爲リ當部ハ組立テサル機體ニ關シ實驗ト熟慮トヲ費ス所アリタリ

- 一 飛行機ノ全製造ヲ米國ニ於テ爲スヘキヤ既ニ積送シタル機體及機關ハ何レモ完全ナリヤ否ヤ
- 二 米國ニ於テハ單ニ部分的ノ半製ヲ爲シ其ノ仕上ハ之ヲ佛國ニ於テ爲スヘキヤ且其ノ仕上ハ佛國工
場ニ於ラスヘキヤ將タ佛國ニ於ケル米國ノ組立工場ニ於ラスヘキヤ

第五節 自由發動機

前述ノ如ク外國發動機ノ製造ヲ爲スコト困難ナル米國ニ於テ而モ實戰ノ要求ニ適スル發動機ヲ製造シ且
多量生産ノ途ヲ講スル爲試ミタル方策二アリ即チ米國ノ製造家ヲシテ各自各樣ノ型式ニ依ル發動機ノ製
造ニ努力セシムルカ或ハ有ラユル型式ノ長所ヲ採リ以テ標準型式ヲ定ムルカ是ナリ而シテ多數迅速製造
ノ必要ハ遂ニ前記第二策ヲ採ルコトト爲リ當部ハ標準型式ノ制定ヲ目的トシ米國ニ於ケル最良技術家中
飛行機用發動機設計ニ經驗アル者二人ヲ選拔シテ之ヲ華盛頓ニ召集シ最大急速ニ純亞米利加式飛行機製
造ノ問題ヲ之ニ提出シタリ前記兩人ハ六月三日ニ於ケル其ノ第一回會合ニ於テ全國各地ヨリ集合シタル
技術家、製國家ト協議ノ上直ニ其ノ仕事ヲ開始繼續シ同月三十日即チ製圖著手後二十四日ニシテ所謂自

由發動機ト稱スル新型機關ハ事實上完成セララルニ至レリ

前記顧問技師及發動機製造業者ハ戰時緊急ノ際ニ於ケル愛國心ノ一端トシテ其ノ業務上ノ秘訣ヲ提供セ
ルノミナラス製造業者等更ニ自己ノ有スル最良製國家二百人ヲ寄附セリ新型機關ハ實ニ技術の經驗ノ最
良考案ニ成レルモノニシテ之カ決定ニ關シテハ雷ニ米國知名ノ顧問技師ノミナラス米國滯在中ノ英、佛、
伊三國各代表者モ亦其ノ完成ニ參與シタルモノナリ

該新型發動機ハ各部總テ標準規格ヲ以テ設計セラレ從テ米國政府ノ注文ヲ受ケタル多數工場ハ迅速且經
濟的ニ之ヲ製造シ得ルノ便益アルノミナラス米國ノ技術及外國ノ經驗ニシテ其ノ米國工場ニ適用シ得ヘ
キモノハ總テ其ノ精粹ヲ網羅シタル國際の典型ナリトス

當部ハ又聯合國ト諸種問題協議ノ爲海外ニ出張所ヲ設クルノ必要ヲ感シ六月十七日合衆國通信兵團ノ指
揮下ニ屬スル一委員ヲ派遣シ米國ヲ代表シテ諸國ノ航空官憲ト協商スルト共ニ先ツ第一ニ海外ニ於ケル
機體及機關製造ニ關スル最近ノ進歩ヲ習得セシメタリ他方ニ於テ是等委員ト共ニ米國ノ最良自動車工場
ヨリ選拔ノ機械技師百三人ヨリ成ル一團ヲ之ニ同行セシメ之ヲ佛國ノ主要ナル六工場ニ依託シ仕事ノ根
柢ヨリシテ最優秀ノ自動車製造技術ノ複雜ナル精技ヲ學ハシメタリ是等派遣員ハ七月一日ヲ以テ其ノ任
ニ就キタルモ其ノ努力ノ總括的效果ハ茲ニ之ヲ述ヘス

第六節 飛行機製造用材

用材供給
力状態

飛行機製造ニ當リ遭遇スヘキ二大困難ハ「スプルース」(樅ノ一種)及麻ノ獲得ニシテ「スプルース」ハ其ノ
輕量ナルト同時ニ強靱ナルヲ以テ從來飛行機ノ支柱及梁材製造ニ絶對的必要品トセラレ又推進機ハ諸種
ノ木材殊ニ主トシテ「マホガニー」及黒胡桃ヲ以テ造ラルルモ「マホガニー」ハ船腹不足ノ爲之ヲ得ル能ハ
サルヲ以テ黒胡桃及樺材ヲ以テ之ニ充用セリ

「スプルース」ハ廣ク一般ニ之ヲ用キ英、佛、伊三國ノ如キモ其ノ供給ヲ米國ニ仰カムトセシモ三國各別
ノ仕様ヲ以テ注文ヲ爲シ且各國夫々數人ノ仲介人ヲ有シ隨テ同一國ノ注文ニシテ注文ノ時機區々ニ互リ
シノミナラス各仲介人間ニ競争ヲ演シ買入手數料又法外ノ巨額ニ上レルヲ以テ當部ハ是等ニ代リテ木材
供給ヲ爲シ飛行機用木材供給力ノ増加及價格ノ低廉ヲ期スル爲熟練ナル一木工業者ヲ代表者ニ指定シ他
方國防會議ニ於ケル木材委員會ノ一員ヲ包含スル代表員等ヲ太平洋岸ニ派シ且製材所ニ於ケル製材仕様
ニ改良ヲ加ヘタリ此ノ結果一面運搬ノ狀況ニモ好影響ヲ與ヘタル所尠少ナラスシテ從來載積二千四百呎
ヲ要シタル「飛行機用材」ハ八百呎ニ減少セラルルニ至レリ(此ノ八百呎ハ現今普通型機體一雙ノ製造ニ
相當スルモノトス)

米國ノ
「スプルース」
産額

米國ノ「スプルース」産額ハ千九百十六年ニ於テ大約三千萬呎ナリシモ千九百十八年ニ於ケル需要ハ遙ニ
此ノ額ヲ超過セリ固ヨリ「スプルース」ハ事實無盡藏ナリト雖「スプルース」ハ一定地帯ニ一割五分以内ノ
整然タル林帶ヲ爲セルモノナルカ故ニ特ニ之カ伐採ニ努力スル所ナクムハ遂ニ供給不足ヲ免レサルヘ

麻ノ供給

麻ハ飛行機翼ノ製造ニ當リ有ラユル工場ニ於テ用ウル纖維ニシテ其ノ輕量且強靱ナルト機關銃彈及彈片
ノ貫通ヲ受クルモ裂ケサルコト竝其ノ表面ニ「ドープ」(塗料)ヲ吸收セシムルトキハ本工業ノ理想的纖維
タルヲ得ヘキコトハ其ノ特徴トスル所ナリ然ルニ元來米國ニ於テハ毫毛麻ヲ産セス其ノ供給ハ全然之ヲ
愛蘭ニ仰キタリシニ自國都市カ敵軍ノ手中ニ落ツルヤ佛蘭西モ亦勢ヒ其ノ供給ヲ愛蘭ニ仰クノ已ムヲ得
サルニ至リ從テ愛蘭麻ノ需要ハ忽然巨額ニ上リ供給ノ不足ヲ告グルニ至リシヲ以テ米國ハ國內ニ於ケル
麻輸入業者ニシテ英蘭及愛蘭製造業者ノ代表者タル者一同ト協議ノ結果其ノ一人ヲ選テ之ヲ前記輸入團
ノ代表員タラシメ同時ニ又政府ノ公式的代表者トシテ麻ニ關スル一切ノ事項ニ就キ英國航空部ト協商セ
シムルコトトシ千九百十八年度ニ對スル麻供給ニ對シ相當ノ額ヲ契約セリ

麻輸入團
代表者ノ
指定

「スプルース」
及麻ノ
代用品
問題

車輪及機
關銃其ノ
他

兎角スル中當部ハ又「スプルース」及麻ノ供給確保ノ爲其ノ代用品發達ノ手段ヲ講スルノ必要ニ迫リタル
ヲ感シ豫テ此ノ方面ニ關シ多大ノ實驗ヲ重ネツツアル規格部ニ本問題ヲ提出セリ
飛行機製造工業ニ於ケル他ノ二製品即チ車輪及機關銃等ニ關シテモ亦當部ハ注意ヲ拂フ所アリタルノミ
ナラス他方通信兵團ニ於テモ亦其ノ格納庫ノ準備、内外ニ於ケル製造工場及飛行服等ニ關シ研究スル所
アリタリ

第七節 價格

前掲整然タル計畫ト同時ニ當部ノ遭遇セル最困難ナル問題ノ一ハ莫大ノ金額ニ上ル本品ノ購買契約ヲシテ不當ノ契約タラシメサルニ在リ而シテ一方購入ニ際シ從前ノ價格ハ何等標準ト爲ス能ハサルノミナラズ前數年ノ注文高ハ頗ル僅少ニシテ毫モ生産費ヲ低減スルニ足ラス且最近價格ノ暴騰ハ單ニ製造者ノ評判ニ過キスシテ實際決シテ其ノ利益ノ夥多ナラサリシコトモ製造業者ノ精算等ニ依リテ之ヲ明ニスルヲ得タリ然レトモ本品ノ注文ハ巨額ニ上ルヲ以テ生産費ヲ適當ノモノタラシムルト同時ニ政府ノ利益ヲ保護スルヲ要シ他方又本工業ハ過去數年間危險視セラレタルノミナラス現戰爭ノ終結ト同時ニ現在ノ大量生産ハ殆ト全ク停止スルノ虞アルヲ以テ勢ヒ之カ獎勵ノ法ヲ設クルノ必要アリ是ニ於テ當部ハ受負者ト協商シ鑑定人ヲ此等各工場ニ派遣シ且信用スヘキ會計士事務所ニ囑シテ諸機體及發動機ノ製造原價ヲ精算セシムルト共ニ此等契約品中米國ニ於テ當テ製造ノ經驗ナキモノニ關シテハ別ニ工場技術ノ經驗家ヲシテ其ノ原價ヲ見積ラシメ斯クシテ當部ハ原價對利潤定則ヲ定メ之ニ基ク契約書式ヲ一定セリ

第八節 飛行場

飛行場ノ開設ニ關シテハ當部ハ七月一日ニ至ル迄慎重ノ考量ヲ費シ最初二十四箇所開設ノ計畫ヲ立テタルモ後一部飛行者ヲ外國ニ於テ練習セシムルノ建言ヲ容レ該案ニ一大改訂ヲ加ヘムトシツツアリ

飛行練習
所位置

飛行練習所設置ニ關シ原則トスヘキ點ハ左ノ如シ

一 場所ハ輸送ヲ輕減スル爲原料及人員ノ供給中心地タルヘキコト

二 其ノ位置ハ地形及氣候ノ狀況適當ナルヘキコト

三 練習場トシテハ戰時國軍ノ要求ト同時ニ戰後民間需要ニ關シ考慮ヲ爲スヘキコト

當部ハ又其ノ海外派遣員及外國ヨリノ多數派遣員ヲ介シ飛行場設備ニ就テモ亦聯合國航空部ト密接ノ關係ヲ生スルニ至リ特ニ加奈陀トノ間ニハ相務協約ヲ締結シ加奈陀ハ「ボーデン」兵營ニ於テ一時「我カ多數ノ陸海軍學生ヲ教練スルニ對シ米國ハ加奈陀ノ爲南部地方ニ一箇ノ二部學校ヲ建設シ以テ冬季「ボーデン」ニ於テ飛行不可能ナルトキ此ノ地ニ於テ其ノ練習ヲ爲スヲ得セシムルコトトセリ

第五章 軍需品總務部

第一節 設立及業務一般

創立、編
成、任務
及業務

軍需品總務部ハ四月九日ノ開設ニ係リ部長ハ「ブラシク、ユー、スコット」ニシテ部員ハ陸海兩省ノ代表者十七名及軍人以外ノ者六名ヨリ成リ當部ノ權限ハ陸海軍ノ購買ヲ協調セシメ原料ノ獲得ヲ助ケ且兩省ノ注文及軍用並工業用注文ノ先後順位ヲ決定スルニ在リ而シテ開設以來其ノ供給力ハ増進ヲ助ケタル軍需品ハ小銃、機關銃、火砲、彈藥、砲車、前車、彈藥車、各種軍用車、鋼製軍帽、穿甲彈、軍用醫療材料、眼鏡、工具及諸種ノ藥料等ニシテ此ノ他陸軍省ノ倉庫建設、價格決定及貯藏品ノ確保ニ關シ顧問トシテ援助スル所アリキ

尙右ノ外不斷ニ發生スル種々不慮ノ事變ニ關シテハ其ノ都度特ニ此等事項ニ精通スル人士ヲ以テ夫々委

員會ヲ編成セリ

注文ノ統

購買上ニ於ケル協調 當部ハ購買ノ協調ヲ企テ陸海軍兩省間並其ノ各局課間ニ於ケル價格ノ競争的難上ケヲ根絶セシメタルト同時ニ現ニ不足シ又ハ不足ヲ豫期シ或ハ製造力不十分ナル材料ニ對シ當部ハ一手形交換所ノ如キ職能ヲ發揮シ注文ノ統一協調ヲ圖レリ

軍需品獲得方法

當部劈頭第一ニ於ケル活動ハ陸海軍各部需要品ノ獲得方法ノ改良ニシテ最初ノ間當部ハ各部ノ原料、材料ニ對セル需要ハ之ヲ獲得シ得ヘキヤ否ヤ若獲得シ得ストセハ其ノ資源開發ニ關スル最良ノ方法如何ニ關シ豫メ顧問委員會ノ原料委員ニ移牒シテ其ノ意見ヲ聽取セリ綿及毛織物並靴等ニ對スル需要ニ關シテモ亦同シク夫々其ノ獲得ヲ目的トスル委員會ニ之ヲ知照セリ

第二節 兵器彈藥ノ製造及各種材料ノ獲得

火砲ノ製造

火砲、小銃、機關銃及彈丸製造 當部員任命後間モナク著手セシ事項ハ火砲製造事業ニシテ本事業ハ初メ國防會議軍需品規格部ニ一任シタルモ實情調査ノ結果全國ノ能力ハ此ノ需要ニ應スルニ足ラサルヲ明ニスルヤ四月多數製造家ノ會合ヲ催シ其ノ安全製造高及引渡高ヲ確ムルト同時ニ製造家及兵器局代表員ノ意見ニ依リ仕様ニ幾多ノ改良ヲ加ヘテ製造家ト協調ヲ遂ケ以テ製造能力ノ増加ヲ圖リ且兵器局ニ對シテハ屢製造工場ニ關スル建議ヲ提出セリ而シテ該會合ニ於テハ常ニ陸海軍間ニ於ケル順位、輕重ヲ考量スルト共ニ出來得ル限り兩省ノ協同ヲ目的トシテ建議スル所アリタリ斯クシテ鑄砲及機械作業能力ハ急

速ナル増進ヲ見六月中旬ニ於ケル當該委員ノ報告ニハ陸海兩軍ノ需要ヲ充タスニ足ル火砲及其ノ諸材料製造計畫既ニ成ルヲ報セリ

小銃、機關銃、彈丸

小銃ニ關シ軍需品規格部委員會ノ爲シタル報告ニ依リ當部ハ陸軍増兵案ニ適應スヘキ小銃製造計畫ヲ立案シ之ヲ兵器局ニ委託シ同時ニ小銃彈藥製造ノ建議ヲ爲スト共ニ各種拳銃製造ニ關スル協議會ヲ開キ兵器局ニ對シ建言スル所アリタリ且米國ノ機關銃製造能力ハ需要ヲ充足スル能ハサルヲ以テ當部ハ之ニ關シテモ亦特ニ委員會ヲ設ケ製造工場及其ノ能力ニ關シ十分ノ研究ヲ遂ケ最善ノ方法ニ就キ建白セリ

米國ニ於ケル彈丸製造ニ就テハ特ニ部内ニ特別委員會ヲ設ケ之ニ關スル完全ノ調査ヲ爲シ彈丸製造業者ト四月中數回ノ協議ヲ重ホ以テ正當且公平ノ價格ヲ決定スル爲原價歩増制ニ基ク價格問題ヲ論議セリ

規格、火藥、車輛及眼鏡 當部ハ又規格問題ニ著眼シ軍需品規格部ト協調シテ本問題ニ關スル一委員會ヲ設ケ關係各方面ト合議ノ上諸般ノ狀況ヲ調査シ且委員ヲ「オッタワ」ニ派遣シ加奈陀政府ニ就キ其ノ經驗ヲ學ハシメタリ

火藥

火藥問題ニ關スル委員會ハ主要製造業者ト協議ノ結果火藥供給ノ頗ル小額ナルコトヲ知り供給補填ノ方法ニ就キ建言セリ

車輛及眼鏡

以上ノ外當部ハ車輛不足問題ヲ研究シ之ニ關シテハ戰時鐵道部ト協議シ又眼鏡ニ關シテハ當部ハ當該委

材料受授
順位決定
爲副委員
會ノ設定

供給拂底
品ニ對ス
ル處置

任務及特
別契約法
ノ必要

員ノ手ニ依リ政府ノ需要ニ充ツヘキ供給能力ヲ増加セシメタリ
軍用車輛用木材及供給拂底品ニ對スル處置 軍用車輛用木材ニ關シテハ經理局ト協調ノ結果同局ニ代リ
テ諸般ノ協定ニ任シ經理局ヲシテ單ニ其ノ需要品受領ニ任スルニ過キサヲシメ特ニ兵營新築ニ對シテハ
木材委員會及鐵道輸送委員會ト相協力シ有ラユル便宜ヲ提供セリ
當部ノ材料徵集援助ニハ當初ヨリ注文先順位並或種物品ノ不足及此等物品ノ注文ニ對シ適當ノ協調ヲ必
要トスルノ二問題生起セルヲ以テ四月中旬以後當部ハ國防會議ニ具申シ政府ノ大體方針ニ則リ材料引渡
順位決定ニ全力ヲ致サムコトヲ以テシタルニ同會議ハ之ニ關スル綱領ヲ提示シ其ノ決定權ヲ全ク當部ニ
一任セリ又當部ハ供給拂底目録ニ迫リ協調ヲ必要トスル材料及製品目録ヲ調製備附スヘキヲ以テ各部局
ヲシテ緊急ノ場合以外ニ在リテハ購買注文ハ總テ當部ノ許可ヲ受ケシメムコトヲ國防會議ニ建言シ之カ
事務執行機關トシテ一副委員會ヲ設置セリ

第三節 戰時建築委員會

機關ノ動

軍需品總務部ハ建築工事ハ戰爭遂行準備業務トシテ重大部分ヲ占ムルコトヲ知リ軍隊ノ訓練及倉庫ニ要
スル大兵舍多數ノ建造並國有造兵廠其ノ他軍需品製造ニ從事セル民間製造所増築ニ關スル問題ヲ講究ス
ル爲千九百十七年四月二十八日戰時建築委員會ヲ組織セリ
當部ノ職務ニ關スル決議ノ一部ハ兵舍建設其ノ他迅速建造ヲ必要トスル同様ノ工事ニ適用スヘキ部分拂

經驗者ノ
召集ト契
約書式ノ
作成

戰時契約
ニ力ヲ注
意スヘキ
事項

建築請負
業者ノ調
査及其ノ
推舉

契約書式ヲ提案シ建築技術的活動ト相俟テ建築速成方法ニ關スル立案ヲ爲スニ在リ然ルニ委員長「タン
ドッフ」氏任ヲ辭シ豫備陸軍少佐技師「スタレット」氏其ノ後任ト爲ルニ及セ競争入札豫定案及其ノ仕様
完成前ニ工事著手ノ必要生シ普通ノ最低入札購買法ハ實行シ能ハサルニ至レリ蓋シ此等兵舍ノ敷地スラ
決定セラレサルヲ以テ建築工事ト設計トヲ同時ニ進行セシムルヲ要シタルニ因ルモノニシテ斯ノ如キ場
合ニ於ケル契約ノ方法ハ未ダ曾テ先例ナキ所トス是ニ於テ有效且満足ナル契約締結ニ要スル智識蒐集ノ
爲委員會ハ全國ニ於ケル多數有力ナル技師及請負者ヲ華盛頓ニ召集シ斯ノ如キ契約ニ對スル希望條項並
報價問題ニ關シ協議シ委員會ハ其ノ決議ヲ要綱ヲ採用シ之ヲ契約ニ包含セシムルノ適當ナルコトヲ認メ
更ニ之ニ關シ軍需品總務部ト評議シ多少ノ修正ヲ加ヘ遂ニ其ノ協議ヲ得タルヲ以テ委員會ハ法律委員ト
協同シ請負契約ノ書式ヲ作成シ爾來政府ノ多數建築請負ニ之ヲ適用セリ
既成部分拂式契約ハ性質上兩當事者相互間ニ於ケル信任ヲ必要トスルモノナルヲ以テ多數請負業者ノ實
情ヲ熟知スルコト一層必要ナリ而シテ戰時契約ノ基礎ハ即チ競争的見積ヨリモ寧ロ諸請負業者ノ實力ニ
アルヘキモノニシテ隨テ戰時工事ヲ必要トスル地方ニ於テハ先ツ主要請負業者ニ關スル調査ヲ要ス此ノ
調査ニ對シ採リタル方法ハ茲ニ之ヲ述ヘス

建築請負業者明細錄 請負業者人名表ヲ作製シ更ニ之ヲ其ノ所在地及經驗ニ依ル請負能力ニ依リ分類シ
請負業者全般ニ關シ最完全ノ調査ヲ遂クルニ至ル迄情報ヲ蒐集シ兵舍敷地ノ選定ヲ了ルヤ委員會ハ該表

兵舎建築
ニ關スル
協力

ニ基キ經理局ノ請求ニ應シテ請負業者ヲ推舉シ軍需品總務部ノ協賛ヲ經報償契約ヲ締結セリ爾後通信兵團、工兵團及兵器局ハ委員會ニ對シ各其ノ權限内ニ屬スル諸種工事ニ就キ請負業者ヲ推舉セムコトヲ依頼シ來リ之ニ對シ委員會ハ各工事地方ニ於ケル最優秀ノ請負業者ヲ指名シタリ

兵舎建設 兵舎建設問題ハ千九百十七年四月及五月頃陸軍省ニ於ケル最重要ナル問題ニシテ陸軍大臣ハ「リッテル」大佐ヲ兵舎建設主任ニ任命シタルヲ以テ戰時建築委員會ハ直ニ彼ヲ翼贊シ計畫及仕様ヲ作製スル爲技術部、戰時ニ於ケル兵舎建設事務ヲ指揮スヘキ幹部及工事ニ要スル莫大ナル材料動員ノ爲購買部ヲ設ケ適當ナル輸送能力等ヲ準備シ且會計部ヲ設置シ各部長ニ夫々適當ノ人士ヲ推薦セリ此ノ推薦ハ多ク採用セラレ其ノ編制ハ「リッテル」大佐ノ意見ニ基キテ成リ陸軍大臣ニ提出シテ其ノ決裁ヲ得タリ又既ニ選定シタル兵舎建設敷地ノ検査ハ初春早々之ヲ爲スノ必要アリシモ之ニ對シテハ些ノ費用ヲ有セサルヲ以テ副委員會ヲ任命シ副委員會ハ都市計畫者及衛生技師ニ訴ヘ副委員會ニ代リ各兵舎敷地ニ於ケル事情即チ輸送上ノ利益、風土、水量及下水排除等ノ調査ニ任シ且之ニ關スル報告提供ヲ請ヒ副委員會ハ前記各方面ヨリノ報告ヲ接手スルト共ニ此等報告ニ提示セラレタル諸問題解決ノ爲「リッテル」大佐ノ技師連ト共ニ努力協助スル所アリタリ

各種委員
會ノ編成

建築材料ノ獲得及其ノ他 兵舎建設ニ當リテハ建築工事ニ要スル諸種材料商人ヲ代表スル委員會編成ノ要アルヲ以テ諸工事代表者ヲ華盛頓ニ召集シタルニ此ノ會合ニ於テハ是等代表者ヲ團員トスル一團體ヲ

移動建築
法ノ研究

組織シ政府ト各工業トノ交渉ハ總テ該團體ヲシテ其ノ局ニ當ラシメムコトヲ要求シタルヲ以テ之ニ基キ數種委員ヲ設ケ其ノ一部ハ常任代表者トシテ華盛頓ニ駐在セシムルコトナリ戰時建築委員會ハ政府ヲシテ速ニ是等建築業者ト接近セシムルニ努力セリ

其ノ他ノ
努力

六月初旬ニ至リテ委員會ハ必スヤ移動建築ヲ要スルコト頗ル多大ナルヘキヲ認メ現今米國ニ於テ製造スル材料並外國軍隊ニ使用スル材料ヲ研究シ一時の建設方法ニ關シテ詳細ナル調査研究ヲ爲シ委員會ハ召集シタル各種専門家ノ考案ニ成ル設計ノ長所ヲ採リ以テ模範的典型ヲ作製セリ移動建築ノ必要ヲ感シタル際ニ於テ此ノ報告ヲ得タルハ工兵團ニ取リ絶大ノ福音タリキ

要スルニ委員會ハ兵舎建設部ニ對スル勸告ノ外政府各方面(通信兵團兵器局及工兵團ヲ含ム)ニ對シ苟モ建築工事ニ就テハ材料供給ニ對スル競争又ハ工事ノ經濟及時間ノ節限ヲ圖リ且設計ノ重複ヲ防クカ爲建築作業ノ協調ヲ爲サムコトヲ勸告セリ

第四節 貯藏委員會

任 務

貯藏委員會職務ノ範圍ハ一切ノ軍需品ヲシテ米國又ハ海外ニ於テ製造ヨリ利用ニ至ル諸般ノ活動ヲ包括的ニ畫策勸奨シ且倉庫事務、分配及輸送ヲ統制スルニ在リ而シテ此等ニ關シ軍事タルト内務行政タルトヲ問ハズ政府各部ニ對シ常ニ勸奨且補足的協力ヲ致シ以テ能ク各部ノ政務ヲシテ圓滑ナラシムルト同時ニ工業界ノ情況ヲ詳悉セシムルニ努メタリ又工業界ニ對スル方針ヲ樹立シ場合ニ依リテハ該方針ノ達成

ニ從事スル職員ヲ推舉セリ其ノ他陸軍省ノ如キハ野戰兵站部員ノ任命、軍需品貯藏方針及貯藏問題ノ實行並解決ニ絶大ノ援助ヲ受ケタリ

委員會ノ事業 委員會ノ事業ハ之ヲ

一 工場及其ノ設備

二 組織及方法

三 職員

ノ三大部ニ分ツ更ニ之ヲ詳説スルハ次ノ如シ

一 工場及設備

イ 形式及所要面積

ロ 位置

ハ 設計及工事

ニ 勞力節約設備

A 地方の運輸取扱設備

B 内部運輸取扱設備

二 組織及方法

イ 倉庫ノ組織

ロ 標準的倉敷法

ハ 輸送及發送手續

ニ 統計及記録ノ作製

ホ 荷造法ノ研究

A 大キサ

B 包裝

O 函箱形式等

三 貯藏事務職員

イ 貯藏事務熟練者ノ調査

ロ 練習學校ノ建設

ハ 貯藏事務女子雇用條件ノ決定

以下千九百十七年七月一日迄ニ於ケル當委員會ノ建築及活動ノ大要ヲ述フル所アラムトス

貯藏場所及貯藏法 陸軍省兵器局、工兵課、經理局、醫務課及通信課ニ要スル貯藏場所及面積決定ノ爲此等各部ヨリ細目及見積ヲ徵收シ之ト及米國ヨリ大西洋沿岸ニ輸出スル積載量ノ巨額ナルトニ鑑ミ諸海

貯蔵法ニ
對スル建
言

兵營所要
材料ノ貯
藏場所
中央貯藏
地

戰時建築
委員會ト
聯絡

鐵道以外
ノ陸上交
通機關ノ
利用

港ニ於ケル波止場倉庫及鐵道ニ此等荷物ノ一時ニ幅濫溢滞スルヲ防ク爲特ニ適當ノ海港地ニ於テ豫メ一
定期間貯藏場所ヲ賃借又ハ購入セムコトヲ政府ニ獻策シ且此等貯藏場所ニ於ケル前記陸軍五部ノ貯藏品
ヲ當該部擔任士官ノ管理及檢閱ノ下ニ各部ニ區分藏置シ得ルノ方法ニ關シ適當ノ考慮ヲ加フルト同時ニ
原料及供給品ノ種類別ニ依ル貯藏法ニ關シテモ亦建言セリ但シ此ノ際既設貯藏所ヲ推獎シ得タル場合ナ
キニアラスト雖斯ノ如キハ寧ロ緊急の事情ノ存シタル場合ニ限り且多クハ一時的トス又兵舍所要材料貯
藏保存ノ方法ニ關シテハ前記端末貯藏場所ニ於ケル設備調査ト均シク特ニ周密ノ考慮ヲ加ヘ其ノ他製造
地及船積港間ニ於ケル鐵道其ノ他交通機關ノ不適當且不必要ナル滞貨ヲ防ク爲中央貯藏地ノ決定ニ關シ
テモ亦研究セリ

前記諸事業遂行ニ關シテハ戰時建築委員會ト密接ノ聯絡ヲ取り之ト協力シ戰時建築委員會ハ當委員會ノ
手ニ依リテ兵舍建設ニ對スル所要材料一切ノ供給ヲ受クルヲ得タリ又兵器局及經理局ノ貯藏品(腐敗品
ヲ含ム)並軍醫課貯藏品ニ關スル原案ハ當委員會ノ意見ニ基キ修正セラレタリ

輸送及荷造 一定積載量ノ貨物ヲ其ノ製造地點ヨリ海外ニ於ケル最後使用地點又ハ仕向地點迄輸送スル
ニ當リ數次荷積又ハ荷揚スルハ經濟上ノ損失尠カラサルヲ認メ委員會ハ荷送人カ電氣鐵道、内地水路、運
河及貨物自動車等鐵道以外ノ交通機關ヲ有效ニ利用スルコトニ關シ十分ノ協定ヲ實現セシメムコトヲ企
テタルカ此ノ案ハ鐵道ヲシテ船舶積載量ノ負擔ヲ輕減セシムルニ與テ大ニ力アリタリ

衛生部隊
其ノ他ヘ
ノ貢獻

荷造法ノ
研究

貯藏事務
從業員ノ
教育

有資格者
ノ登錄
婦女使用
ノ研究

又衛生部隊ニ對シ其ノ内地及戰地勤務ニ要スル材料ノ準備供給ヲ爲シタルノミナラス工兵部隊及通信部
隊ノ需品供給ニ對シテモ亦貢獻シ其ノ他兵器局原料材料供給部ト貯藏委員會トノ間ニハ夙ニ十分ノ聯絡
ヲ執リ來レリ

荷造方法ノ研究ニ依リ貯藏所ヲ一層有效ニ使用セムカ爲ニハ更ニ周到ナル調査研究ヲ要スルヲ認メタリ
是總括的研究ノ結果或ル場合ニ於テハ場所ノ節約六割ノ多キニ上リ英國ニ於テハ之カ爲ニ得タル費用ノ
節減一箱ニ付平均一弗二十五仙ヨリ一箱ニ付六十二仙半ニ降ルニ至リシコトヲ明ニシタルニ因ルモノニ
シテ該研究ハ貯藏業務ハ勿論建築業務ニモ貢獻スル所頗ル大ナルモノアリキ此ノ他猶供給品ニ對スル標
準的函箱又ハ包裝ノ製造モ十分考慮ノ價值アルヲ認メタリ

貯藏事務從業員 五月初旬經理局、工兵部隊特ニ兵器局ハ諸方面ニ於ケル勤務ニ從業セシムヘキ熟練ナ
ル職員ヲ求メムコトヲ委員會ニ囑託シタルヲ以テ委員會ハ貯藏事務從業員ノ教養ニ資スル爲ハ高等學校
及大學ニ於テハ八週間速成ノ專門科目ヲ設ケタリ而シテ其ノ聽講者ノ大部ハ專門學校卒業者ニシテ七月一
日迄ニハ卒業又ハ修業中ノ者約千二百人内兵器局ノ勤務ニ服シタル者頗ル多數ニ上レリ然ルニ尙陸軍各
部ヨリ要求スル職員ノ數甚大ナリシヲ以テ責任者ヨリ適當ノ推薦ヲ爲サシメ特ニ專任職員ヲシテ有資
格者ノ經歷ヲ登錄セシメ斯クシテ任命セラレタル者ハ國民配給所長及倉庫主任ヨリ荷造人ニ至ル頗ル多
數ニ上レリ其ノ他工業上婦女雇用ノ必要益増大スヘキヲ豫見シ特ニ貯藏業務ニ於ケル其ノ能力ヲ研究セ

如上各般ノ職掌ヲ司ラシムル爲委員會ハ分課ヲ別チ經驗ニ富メル有資格者ノ執務ヲ指圖セリ

第六章 軍需品規格部

創立及任

當部ハ國防會議ニ於ケル千九百十七年三月二十日ノ決議ニ依リ多數軍需品ヲ迅速且有效ニ製造スル業務ヲ助成セシムル爲創立セラレタルモノニシテ軍需品ノ仕様規格ヲ定ムルニ在リ但シ陸軍大臣ハ千九百十六年六月三日國防條例第百二十條及第百二十三條ノ規定ニ基キ武器彈藥戰時製造ノ爲仕様及明細圖、尺度、鑄型、鑄及工具等ヲ選定スルノ全權ヲ有ス抑軍需品規格部ノ創設ハ元老院議事錄第六百六十四號ヲ以テ發表セラレタル千九百十七年一月四日附報告「武器彈藥及裝備ノ政府直營」ニ其ノ端ヲ發セリ（此ノ報告ハ陸軍大佐「フラス、ジェー、カーナン」氏ノ統裁ニ屬スル部局ニ於テ作成シタルモノトス）而シテ此ノ報告ニ於テハ特ニ政府カ武器彈藥及裝備ヲ直接製造スルノ絕對ニ不可ナルコト及可及的廣ク且速ニ圖面及尺度ヲ多數蒐集スルト同時ニ尺度、鑄及工具ノ規格ヲ定ムルコト必要ナルヲ建言シタルモノニシテ國防會議ハ顧問委員會ヲ贊同ヲ經テ「カーナン」氏ノ建議實行ヲ助成スルカ爲軍需品工業專門家六名ヨリ成ル一委員會ヲ設立スルニ至リシモノナリ

軍需品總務部ノ協同

製造力増進法 軍需品規格部ハ最初米國ニ於ケル銃器、砲彈其ノ他一切ノ軍需品製造ニ關スル調査及製造業者トノ商議ニ關シ全責任ヲ以テ事ニ當リタル後軍需品總務部ト協同シ一層多量ノ製造ヲ得ル爲仕様

及設計ニ修正ヲ加ヘタリ而シテ是固ヨリ陸海軍各部ト終始一貫協力シタルニ依リテ速セラレタルモノニ外ナラス

規格統一ノ必要

政府當局ハ米國ヲシテ本戰争ニ要スル軍需製品ノ激増セル莫大ノ要求ヲ充足セシメムトセバ諸工場ヲ統一シ且成シ得ル限リ其ノ製品ノ型式ヲ一定制限セザルヘカヲサルヲ認ムルニ至レリ蓋シ不適當ナル酌量ニ依リ設計セラレタル型式ハ既ニ米國及聯合諸國ノ製造家ヲシテ數百千萬弗ニ上ル損害ヲ蒙ラシメタレハナリ青寫眞ノ如キモ政府ハ十分實驗檢定ヲ經タル者ニアラサレハ之ヲ使用セサルコトトシ斯クシテ一切ノ工場ヲシテ其ノ製品ヲ統一スルヲ得セシムヘク當部ハ即チ之カ遂行ニ貢獻シタルモノトス

外國注文ニ依ル採川

外國ニ於ケル經驗ノ採用 平時ニ於ケル規格ヲシテ戰時狀態ニ適合セシムル方法ノ發見竝一層實際的ナル製造計畫ヲシムル爲可能ナル設計修正ヲ指示スルハ其ノ重要ナル任務ノ一ナルヲ以テ當部ハ既ニ二箇年半間外國政府注文ノ軍需品製造ニ依リテ得タル製造家ノ經驗ヲ陸軍各部ノ參考ニ資セシムルニ努力シ尙聯合諸國ノ爲軍需品製造ヲ爲シタル製造工場ノ總目錄ヲ作成シ其ノ製造能力ヲ表掲セリ

規格部委員タリシ專門家

當部員ニ任命セラレタル專門家ハ左ノ如シ

議長 「フランク、エー、スコット」

「ルート」及「ヴンターヴォールト」會社員、特殊機械工具製造業、「モリン」自動車會社社長

前國民現金登錄會社總支配人、「デイトン」技術試驗所會社社長其ノ他諸種工業ニ關係

在「スケネクタデー」、「ゼネラル」電氣會社員

「ダブリュー、エイチブングラウオールト」

「イー、エー、デイトン」

「フランシス、ブラット」

「ボールドウィン」機關車製作所員、「レミングトン、アンド、ウエーバチングハウス」會社員

「サミューエル、グオーラレーン」

「ウインチエスター」武器製造會社副社長

「ジョン、エス、オッターソン」

第七章 採炭委員會

第一節 創立及調査

創立及任

採炭委員會ハ千九百十七年四月二十七日ノ設置ニ係リ無煙炭、有煙炭ノ採炭能力増進ノ爲各般ノ努力ヲ爲シ顧問委員會ノ鐵道運輸委員會ト協力シ需要大ナル地ニ對シ石炭ノ移動ヲ迅速ナラシムルヲ目的トスルモノナリ

委員ノ種

本委員會委員ハ炭坑主、現場員、骸炭製造者、配給者、運送業者代理人、國立地質調査所、鑛山局及勞

働省ノ代表者ヨリ成リ千九百十七年五月九日第一次會合後其ノ組織完成スルト共ニ各委員ノ分擔業務ヲ決定セリ

十七年度
石炭需要
見込額

千九百十六年ニ於ケル無煙炭及有煙炭ノ採炭額ハ斯業界未曾有ノ巨額ニ上リタルモ本委員會ハ當初ヨリシテ千九百十七年度ニ於ケル需要ハ更ニ著シク前年度採炭額ヲ超過スベキ意見ヲ有セリ蓋シ單ニ内國ノ需要力増加シタルノミナラス聯合諸國及中南米ノ米國炭ニ對スル需要ノ増加亦莫大ナルモノアルヘキヲ以テナリ

採炭額及
比較調査

石炭需要額、其ノ最大採炭力及配給力ヲ可及の精確ニ斷定スル爲採炭委員會ハ鑛山局及國立地質調査所ノ助力ヲ藉リ全米國ニ於ケル一切ノ炭坑、其ノ層脈ヲ明示セル地圖ヲ作成シ且消費者ニ關スル概括的調査ヲ爲シ諸工業界ニ於ケル需要ノ見積額及貯炭量ヲ明ニセリ

石炭問題
坑夫ノ不足
及配給不
足ニ及不
全ニアル

右調査ノ結果石炭需要額ノ獲得ヲ制限スル原因ハ坑夫ノ不足及配給力ノ不完全ニ在リテ決シテ炭量ノ不足ニアラサルコトヲ知ルト同時ニ千九百十七年ノ採炭量ハ千九百十六年ニ於ケル最大採炭量有煙炭約五億三百萬噸、無煙炭約六千七百萬噸ヨリモ一層之ヲ増加セシムルノ必要アルヲ認メ當初ニ於ケル豫測ヲ確信セシムルニ至レリ

坑夫ノ不足
及配給不
足ニ及不
全ニアル

坑夫ノ不足ハ電氣機關車ヲ取扱ヘル者及長時間繼續シテ肉體の勞働ヲ要スル職務ニ從事セル壯年者ヲ募集シテ之ヲ補充スルコトトセリ蓋シ老年坑夫ハ結局採炭ヲ遲延セシムルコト經驗ノ示ス所ナレハナリ他

鐵道、船
輸送力
不足

生産配給
需要機關
統一協
力ヲ要ス

方外國移民ノ坑夫數毎年八萬人ニ止マリタルモ其ノ入國全ク停止スルニ至リタルヲ以テ石炭業ハ茲ニ多
數ノ坑夫ヲ失ヒ剩ヘ他ノ産業ハ多額ノ賃銀及規則的勞働時間ヲ勞働界ニ提供シタル結果坑夫ノ心理狀態
ニ動搖ヲ來タスニ至リ又全國ニ於ケル鐵道及船舶ハ單ニ炭界ニ對シテノミナラス一般貨物ニ對シテモ溢
滯ヲ來タシ船貨ハ一切出港禁止ヲ命セラルルニ頻々ニシテ鐵道及船主ノ非常ナル努力アルニ拘ラス輸
送力ノ缺乏ヲ見ルニ至リシハ茲ニ費スルヲ要セス故ニ石炭輸送上炭車ノ供給力焦眉ノ需要ニ應スル能ハ
サルカ如キコト一年中一再ニシテ止マサルハ殆ト毎年ノ現象ナリト雖此ノ狀態ハ戰時異常ノ需要ニ對シ
テ殆ト慢性的ト爲リ而モ之ニ貨車若ハ船線ノ増加ニ依リ緊急的救済ヲ期待スル能ハサルコト一般ノ情況
ヨリ見テ明瞭タルニ至レリ

以上述ヘタル所ヲ綜合セハ石炭ノ適當ナル生産及分配ヲ得ル爲唯一ノ解決方法ハ現在ノ生産及分配手段
ヲ容易ナラシムルト同時ニ從來運送業者、生産者、坑夫、分配者及消費者間ニ存シタルヨリモ一層大且
密接ナル協力ヲ遂ケシムルニ在ルハ明白ニシテ即チ石炭委員會ノ目的トスル所タリ而シテ此ノ目的ヲ達
スルカ爲採リタル方法ヲ詳述スルハ浩瀚ニ過クルガ故ニ以下單ニ其ノ活動ノ二三ヲ簡單ニ略述セムト
ス

第二節 石炭分配能率ノ増進及供給問題

湖畔石炭合同 米國西北部地方ハ殆ト全ク湖上航運ニ依リ大湖沼航運ノ開通期間所謂湖上季節ハ普通四

月初旬ヨリ十二月初旬ニ互ル期間ナリト雖今年ハ春寒遲レ五月ニ入リテ漸ク開通シ而モ六月十日ニ至ル
モ尙堅氷舟航ヲ妨ケ事態頗ル重大ノ狀況ニ在リ開湖期ノ著シキ遲延ニ基ク諸大湖岸ニ於ケル手持石炭貯
藏量ノ減少ハ斯業界未曾有ニシテ全力ヲ以テ積送スヘキ期間七箇月ハ三週間ノ短縮ト爲レリ此ノ急迫狀
態救済ノ爲石炭荷主及「エリー」湖岸諸港ニ於ケル鐵道及汽船會社ノ代表者ヲ召集シテ協定ヲ作リ同種石
炭業ヲ合同シ以テ湖岸諸港ニ於ケル委託販賣契約數ヲ六百七十七ヨリ九十七ニ削減セリ而シテ右ハ一
石炭業者ノ態度カ愛國のニシテ自利ヲ離レ多年扶植シタル業務上ノ信用ヲ犧牲ニ供シ各會社ノ個別的
長ヲ沒却スルコトニ依リテ始テ實現セラレタルモノトス

以上ノ如クシテ「エリー」湖岸諸港ニ於ケル炭車ノ平均積込日數ハ三日半ヨリ二日ニ短縮セラレ依リテ以
テ湖岸諸港ニ至ル炭車ノ數ヲ増加シ且西北部地方ニ對スル石炭ノ輸送量ヲ増加セシムルヲ得タルコト甚
大ナリトス

海上石炭合同 湖上石炭合同ノ成績顯著ナルニ鑑ミ採炭委員會ハ更ニ進テ陸海軍及從來英國ノ供給シタ
ル聯合諸國並南米諸國ニ對スル莫大ノ石炭需要ニ應スル一階段トシテ一層大規模ニ全大西洋岸ニ於ケル
合同ヲ計畫セリ而シテ海上石炭運送業者モ亦彼ノ湖上運送業者ト同シク愛國的精神ヲ發揮シ其ノ多年扶
植セル貴重ナル業務上ノ信用及販路ヲ犧牲ニ供スルニ至リタルヲ以テ湖上合同ヨリモ更ニ大ナル成功ヲ
收メ合同計畫實行ニ伴ヒ委託販賣數ハ一千百ヨリ四十七ニ削減セラレ十五日間ヲ出テスシテ炭車ノ積取

全大西洋
岸ノ石炭
合同及其
ノ效果

海軍用特
種炭ニ對
主トノ協
調

作業時間ハ既ニ半減スルニ至リ又「ニューボート、ニュース」ニ於ケル御用船石炭積込量從前ノ平均一日
六千六百噸ハ忽ニシテ一日二萬一千噸ニ激増セリ而シテ此等ハ從來夢想タモセサリシ所ニシテ從來ノ方
法ヲ以テシテハ全然不可能ナル所ナリ

三四

他ノ政府
用石炭供
給ニ對ス
ル委員會
ノ努力

海軍用炭 戰艦用石炭ノ供給困難ヲ告クルニ至ルヤ海軍大臣ハ之ヲ満足ナル價格ヲ以テ取得セムコトヲ
委員會ニ依頼セリ由來戰艦用石炭ハ海軍省ノ検査規格表ニ列舉セラルル少數炭坑ヨリ産スル特別品質ノ
モノニ限定セルヲ以テ是等炭坑主ヲ直ニ華盛頓ニ召集シタルニ炭坑主等ハ事實上其ノ全產額ヲ既ニ賣却
シアリタルニ拘ラス特ニ海軍省ノ爲此ノ特等炭百七十萬噸ノ供給ヲ承諾シ且其ノ價格ニ就テハ政府ノ決
定ニ對シ事後承諾ニ甘シタリ

他ノ政府用炭 海軍省カ戰艦用石炭ノ獲得ニ困難シタルト同様政府ノ他ノ方面ニ於テモ將來ノ其ノ需要
ハ勿論現在既ニ必要ナル石炭スラ獲得スル能ハス總缺乏額ハ海軍省ヲ含ミ約八百萬噸ノ多額ニ上レリ
「コロンビヤ」諸官廳ニ於テハ運搬引込設備ノ缺乏ト且從來此等諸官廳用炭規格ハ嚴正ニシテ品質ニ對シ
保證ヲ要シ加フルニ地方商人ハ炭坑主ノ特別保護ヲ要スルカ如キ頗ル無力ノ者ナリシヲ以テ石炭供給問
題ハ甚タ複雑ナル關係ヲ招來シ炭界ニ於ケル戰時異變ト相俟テ契約ノ實行不可能トナルニ至レルヲ以テ
此等規格改定ノ必要ヲ認メ其ノ承諾ヲ得ルト共ニ貨車積ニ依ラスシテ荷車積ニ依ル運搬ニ關スル協定ヲ
モ締結セリ又採炭委員會ハ單ニ「コロンビヤ」ノ官廳用石炭ノ缺乏ノミナラス其ノ他全米國ニ於ケル官用

石炭缺乏問題解決ニ努力スル必要ニ際會シ之ニ對シテハ全國石炭業ノ完全ナル動員ニ依リテ之ヲ達成ス
ルヲ得タリ

第三節 勢力及最高價格

戰時産業
主ニ石炭坑
主ノ影
響シタル
シタル影
響

勢力 米國一般戰時産業界ニ於ケル波動ハ石炭業ニ對シ最顯著ナル影響ヲ及ホシ彼ノ急速ニ發展セル
戰時工業ニ於ケル異常ノ高級賃銀及常備契約ハ皆ニ炭業界ヨリ大多數ノ坑夫ヲ拉去シタルノミナラス居
殘リタル坑夫ノ多數ニ對シテモ動搖及不満ノ觀念ヲ與ヘ遂ニ罷工、紛爭等ノ事件ヲ惹起シ炭業勞働界ハ
南北戰爭以來未曾有ノ危險狀態ニ瀕スルニ至レリ而シテ協力ニ向フ進歩ヲ全然阻害セムトシタル此ノ如
キ重大ノ危機ヲ制御シ得ルニ至リタルハ一ニ採炭委員タル亞米利加坑夫組合、亞米利加勞働聯合組合及
勞働省ノ代表者等カ犧牲的精神ヲ發揮シタルニ因ラスムハアラス實ニ採炭委員會及全國ニ於ケル其ノ援
助者努力ノ結果ハ簡單ニ次ノ數字ヲ以テ示スコトヲ得ヘシ

採炭力ノ
變化

千九百十七年一月六日ニ終ル一週間平均一日ノ產額ハ有煙炭百八十四萬噸、無煙炭二十二萬八千四百九
十噸ナリシモノ採炭委員會設立ノ時期即チ同年四月二十一日ニ終ル一週間平均一日ノ產額ハ減シテ有煙
炭百六十八萬二千噸、無煙炭二十二萬三千六百八十噸ト爲レリ然ルニ同會設立ノ日以後產額ハ徐々ニ増
進シ六月末日ニ至リテハ平均一日ノ採炭力ハ有煙炭百九十萬二千八百六十四噸、無煙炭二十八萬一千九
百六十噸ト爲リ古來炭界ニ於ケル最大產額ヲ見控目ニ云フモ猶管ニ國內全需要ニ應シテ十分ノミナラス

多額ノ剩餘ヲ以テ聯合諸國ノ石炭ノ缺乏ヲ救済スルコトヲ得ヘシ

斯ク産額ハ増大シタルノミナラス委員會ハ之ニ依リ經濟上需給ノ法則ニ從ヒ當然暴騰スヘキ炭價ヲ自働
的ニ低減セシメタルコト大ナルモノアルヲ信ス尙終リニ亦此ノ結果ノ到來ヲシテ迅速ナラシムル爲召集
ニ應シ協議ニ與リタル者全米國石炭業代表者團體總員四百餘名ヲ算シタルコトヲ附言ス

最高價格
ノ決定

最高價格 前記石炭業代表者總會ハ華盛頓ニ開催セラレ内務卿、海軍卿、司法省ノ代表者一名及同業組
合聯合會員一名之ニ參會シ全國採炭業代表者ハ自ラ進ミテ採炭原價ヲ決定シテ其ノ最高炭價ヲ定ムルコ
トニ一致シ且直ニ其ノ實行ヲ期スル爲全國採炭業者ハ該價格ニシテ苟モ内務卿、同業組合聯合會員一名
及採炭委員會會長ヲ以テ組織スル委員會ノ決定シタルモノタル以上之ヲ承認スヘキコトヲ決議セリ而シ
テ該委員會ハ此ノ決議ニ基キ六月二十八日諸種石炭ニ對スル最高價格ヲ指示スルノ宣言ヲ爲シ之ニ對シ
代表者等ハ此ノ價格以上利益ヲ加算セサルコトヲ約定セリ但シ該委員會ハ政府及公共事業以外ノコトニ
關シテハ何等ノ權能ヲ有セス加フルニ採炭業者ニシテ最高價格以下ニテ賣却ヲ欲スルトキ之ヲ禁止ス
ルカ如キ協定又ハ了解存セザリシヲ以テ事實上所々ニ於テ公定價格ヨリモ廉價ヲ以テ販賣シタル者アリ
是固ヨリ隨意ノ一時的商略ニ外ナラサルヘキモ(地質調査所ノ爲シタル見積ニ依ルトキハ此ノ値引ニ依
リテ有煙炭消費者ハ一箇月千五百萬弗ノ節約ヲ爲スコトヲ得タリト)需要者カ品拂底ヲ告ケツツアル時
期ニ於ケル採炭業者ノ此ノ如キ廉價ニ對シ委員會ハ勿論此ノ如キ場合ニ於テハ曩ニ決定シタル最高價

公定價格
以下ノ廉價

格ハ改訂ヲ要スヘキコトヲ認ムルト共ニ一方石炭業者ハ無比ナル協助ヲ發揮シタルモノト認メツツア

第八章 商業經濟部

第一節 設立及事業一般

創立及任

商業勢力
節約法

國防會議ハ商業ノ戰時需要ニ對スル最良方法ノ研究及指導ノ爲ニ三月二十四日商業經濟部ヲ創設セリ商
業ニ通常使用セラルル多數人員及材料ハ戰時徵發セラルルハ已ムヲ得サルト共ニ此等人員及材料ヲ徵發
セラレタル後ニ於テモ業務上大ナル困難ヲ感セス且商品ノ需要者ニ對シ迷惑ヲ及ボササラムコトヲ欲セ
ハ頗ル大規模ノ計畫ヲ要スル是亦明ナル所ニシテ商業經濟部ハ實業家ヲ指導スルト共ニ之ト協力シ以テ
時局ニ必要ナル組織、配置ヲ爲サシムルヲ目的トス即チ問題ハ諸種ノ事業中不必要ナル活動ニ屬スルモ
ノヲ決定シ之ヲ減殺シ又ハ少クシトモ之カ準備ヲ爲スニ在リ而シテ勢力ニ關スル第一目的ハ補充、義勇兵
志願其ノ他戰時事由ニ依リ人員ヲ減少セル商會ヲシテ農耕、造船、兵器彈藥製造、鑛業、鐵道其ノ他重
要産業ニ於ケル限リアル勢力ヨリ其ノ填補ヲ求ムルコトヲ營業ヲ繼續セシムルニ在リテ之カ爲ニハ勢
ヒ商會ヲシテ不必要ノ活動ニ對スル勢力ヲ節減セシメサルヘカラス又材料ニ關シテモ特ニ重要ナルモノ
ハ成ルヘク之ヲ維持保存シテ以テ其ノ消費ヲ豫防シ若ハ不足ノ増大ヲ防止スルコト必要ナル事トス
商業經濟部カ會計年度未迄ニ施設シ得タルコトハ主トシテ豫備的性質ニ屬スルモノニシテ夏秋ヲ通シ人

十七年度
未迄ノ事業
要成績概

員及原料ノ著シキ節約ヲ目的トシ行ハレタル數種施設ノ如キ概シテ單ニ手際好ク開始セラレタリト云フニ過キスト雖一施設ノ如キハ頗ル確實ナル成果ヲ舉クルヲ得之ニ依リ同部ハ一層大規模ノ方法ヲ如何ナル方面ニ施スヲ得ルヤニ就キ確算ヲ有スルニ至ラシメタリ尙附言スヘキハ此等方策實行上當部ハ其ノ關係實業家ニ對シ法律上何等強制權ヲ有セサルモノナルヲ以テ其ノ成績ヲ舉ケタルハ一ニ隨意的協力ノ結果ニ外ナラサルコト是ナリ

第二節 賣殘麵粉返戻制度廢止

當部ノ先ツ第一ニ試ミタル運動ハ從來麵粉小賣商ヨリ其ノ賣殘品ヲ製麵商ニ返戻シタル習慣ヲ廢スルコト是ナリ一製麵商ハ書面ヲ以テ右ニ關シ農商務省ニ具申シ同省ハ之ヲ當部ニ移牒シタルニ依リ當部ハ多數製麵商ニ就キ之ヲ調査スルコトトシ三十五都市ニ於ケル二百三十五製麵商ヨリ郵便ヲ以テ右ノ事實ニ關スル報告ヲ徵シタル結果製麵商ヨリ小賣商ニ對スル總供給量ノ内返戻品ハ其ノ四・八七%ナルコトヲ明ニセリ而シテ該報告ノ蒐集ニ方リテハ前記製麵商ヲ種類及場所ニ從ヒ公平ニ配置シ以テ事業全體ニ關スル公平ノ割合ヲ得ルニ努力セリ抑賣殘麵粉返戻制ハ製麵商及小賣商ニ取リ二重ノ無用手間ニシテ當部ノ勞力及設備ノ著シキ浪費タルノミナラス實ニ小麥ノ浪費ニ外ナラス前述ノ蒐集統計ニ依ルトキハ返戻麵粉ノ約半額ハ貧民ニ賣却セラレ次ニ少クモ其ノ三分ノ一ハ全ク人類ノ食料ニ供セラレスシテ家畜ノ飼料トシ又ハ全然之ヲ放棄シ去ルモノニシテ全國ニ就キ之カ利用ヲ講スルニ於テハ約二十萬

賣殘麵粉
返戻制度
廢止
其ノ由
來及
其ノ
影響

計
返戻
品
統

人分ノ麵粉ヲ準備スルコトヲ得ヘキ計算ト爲ル又返戻制ハ麵粉ノ賣上高ヲ増加スル爲競争ヲ誘起スル結果國民ハ間々事實必要以上ノ麵粉ヲ買込ムニ至リ此ノ方面ニ於ケル浪費ハ更ニ大ナルモノアリ而モ聯合諸國ハ小麥缺乏ニ苦メルノ際ニ於テ此ノ事實アリ豈ニ憂フヘキニアラスヤ

返戻制度ハ供給豊富時代ニ創マリタルモノニシテ其ノ後一般ニ需給狀態一變セルニ拘ラス製麵商カ之ニ感知セサリシ結果常習の特權トナリ根柢ハ深ク築キ上ケラレ途ニハ却テ此ノ商習慣ノ廢止ヲ欲セサルノ風ヲ生スルニ至リタル蓋シ自然ノ歸向ト云フヘク特ニ小賣商側ニ於テハ此ノ特權ヲ廢止スルハ頗ル都合悪ク仕入注文ヲ爲スニ當リテハ甚シク戒心ヲ要シ少クモ從來製麵商ノ負擔シタル損害ノ幾分ヲ自ラ負擔セサルヘカラサルノ結果ニ至ルヘキヲ以テナリ然レトモ地位アル製麵商及小賣商ノ大多數ハ返戻制廢止ニ一致シタルヲ以テ商業經濟部ハ六月六日全國製麵商卸賣商ニ檄ヲ發シ六月二十四日以後決シテ賣殘返戻品ヲ引取ラサラムコトヲ請ヒ後一部製麵商ヨリ期限延長ノ依頼アリタルヲ以テ更ニ之ヲ七月九日ニ延期セリ然レトモ七月一日迄ニ當部ニ達シタル報告ニ依レハ右ノ勸告ハ既ニ多クノ地方ニ於テ實行セラレ期日迄ニハ一般ニ實行セラルルニ至ルヘシト云フ

返戻制度廢止問題ニ關シテハ當初ヨリ種々詳密ニ互ル實行行爲ヲ要シ先ツ製麵商集會ハ多數都市ニ於テ行ハレ數百人ニ上ル該商ニ對シ一々個人的招狀ヲ發シ且其ノ參否ヲ一々照會スルヲ要セリ而シテ右事務ハ主トシテ各州防務會議之ニ任シタルモ國防會議州防務統轄課ハ各州防務會議ニ於ケル該事務ヲ當部ニ

賣殘麵粉
返戻制度
廢止
其ノ由
來及
其ノ
影響

依託シ當部ヨリ直接製麵麴商ト交渉シタル場合亦甚タ多ク斯クシテ右運動ノ奏功ハ七月一日ニ至ル間ニ於テ事實ト確タル見込ヲ得ルニ至リ製麵麴事業ハ各地ニ散在スル些少ノ例外ヲ除キ殆ト全ク返戻制ヲ見サルニ至レリ

四〇

第三節 商業勢力ノ節約

當部ハ又四月初小賣商店ニ於ケル物品受渡事務調査ヲ開始シ小賣商ヨリ右ニ關スル事實及申告ヲ蒐集シ其ノ代表的商人ト會合協議スルト共ニ一方當部調査員ヲ食料品小賣店五百軒、雜貨小賣店及百貨店（「デパートメントストア」）一千軒ニ派遣調査セシメタリ又全國食料品卸賣業組合ハ當部ノ爲三十五箇ノ市及町ニ於ケル其助的受渡制ノ實驗ニ關スル報告ノ蒐集ニ努メ「マサッチュセツ」・「ウアーモン」二州ノ州防務會議ハ夫々各自州内ニ於ケル物品受渡係員及設備ノ統計的調査ヲ施行セリ更ニ當部ハ商務省ニ於テ蒐集シタル貴重ナル材料ヲモ利用スル所アリキ

此等調査ノ結果全國ニ於ケル食料品小賣店及雜貨小賣店並百貨店ノ使用スル物品受渡係員ハ其ノ數二十萬人ヲ下ラサルコトヲ明ニスルト共ニ適當ナル先見ト共助トヲ以テスルトキハ此ノ人員ハ之ヲ半減シ殘餘ヲ軍役ニ差向クルモ商人及顧客ニ何等ノ苦痛ヲ與ヘサルコトノ確信ヲ得ルニ至レリ

顧客ハ御用開ヲ要求シ御用開商人相互ノ競争ハ激甚トナリ一日三、四回ノ配達ハ普通事ニシテ而モ是總テ無制限ナル特別配達ニ係ルモノトシ尙顧客ハ自由突戻ノ特權ヲ有ス某大商店ニテハ引渡シタル荷物

商業從業員ノ調査
及其ノ節約
見込可能

販賣品受
渡事務上
ノ弊害

ノ二割五分ヲ返戻セラレタルコトアリタルノミナラス百貨店ニ於テハ戻リ品ノ割合ニ達スルハ普通ノ例トセラレ又他方現金拂ノ特權ハ濫用セラレ商店標準日ニ於ケル現金拂配達荷物二千二百七十四箇中其ノ五割四分ハ事實上收支債ハサル小價格品ナリシト謂フ此等事實ヨリシテ先ツ第一ニ當部ノ注意ヲ喚起シタルハ勢力浪費ノ問題ナリ此ノ慣習モ亦麵麴返戻制度ト同シク供給豊富ノ時代ニ創マリタルモノニシテ斯ノ如キ時代ニ於テハ許スヘキ制度ナリシナラムモ戰爭時代ニ於テハ宜シク緊急的ニ廢止スヘキコトニ屬ス

配達同數
及共同
配達の
補助的
制の
制

是ニ於テカ當部ハ六月二日國防會議ニ請ヒテ小賣商配達事務經濟確立ノ權ヲ受ケ同月二十六、二十七兩日ニ互リ小賣商店殊ニ食料品店、雜貨店及百貨店等ニ對シ能フ限リ其ノ規定ノ配達回數ヲ制限シ一巡路ニ一日一回トシ特別配達即チ便宜配達ハ之ヲ廢止スルト共ニ物品ノ返戻並現金拂ノ特權ヲ絕對最少限度ニ限定セムコトヲ勸告シ他方ニ於テ中、小市町ニ對シ其助的配達制度ノ採用ヲ慫慂セリ此ノ制度ハ當部ノ蒐集シタル實例ニ徵スルトキハ一般ニ勢力ヲ節約スルコト五割乃至六割ナリシト云フ該事業ハ勿論本會計年度末迄ニハ實績ヲ舉グル能ハサリシト雖大部ノ地方ニ於テ右勸告ノ全部又ハ一部ヲ採用スルニ至リタルコトハ茲ニ之ヲ記述スルヲ適當ト信ス而シテ店舗ニ於テ幾人ノ人員ヲ節減スルヲ得ルヤノ問題ハ尙未タ之ヲ算定スルヲ得サルモ其ノ數千人ニ達シタルハ明ナリ尙偶然ノ結果トシテ多數商店ニ於ケル費用節減ノ著大ナルモノアリシコトハ當部ノ知悉スル所ニシテ此ノ種費用ノ節約ハ結局顧客ノ受クル利益

ニ外ナラサルナリ

第四節 羊毛及皮革保存運動

羊毛節約問題

羊毛節約
運動及當
業者ニ對
スル勸告

商業經濟部ハ五、六兩月ニ互リテ羊毛需給ノ現狀調査ヲ實行セリ此ノ際ニ方リテモ亦當部幹事自ラ之ヲ調査シ斯業ノ代表的人物ト協議シタルノミナラス英佛政府代表者、陸海軍及農商務各省官吏並羊毛及毛織物業ノ先達家トモ亦協議ヲ重ネタリ此等協議ノ目的ハ即チ需要及供給額ノ決定、陸海軍ノ大需要ニ伴ヒ國民ノ消費節減必要ノ有無及此ノ必要アリトスルトキハ其ノ實行ノ最良方法如何ノ問題ヲ研究スルニ在リキ其ノ他尙當部ハ一層重要ナル用途ニ充テムカ爲輸出ヲ制限シ出來得ル限リ輸入ヲ減少セムコトヲ欲シタルヲ以テ船舶院及戰時通商局ノ代表者並是等ノ先達ノ士トモ協議セリ

羊毛節約
運動及當
業者ニ對
スル勸告

此等研究調査ノ結果五月末日迄ニ國民ノ羊毛消費ニ對シ平時ノ儘之ヲ放置セムカ年内ニハ既ニ其ノ大缺乏ヲ來タスヘキコトヲ確認シ得ルニ至リ直ニ其ノ節約運動ヲ開始セリ然レトモ七月一日迄ニハ單ニ其ノ準備行動ヲ終了セリト謂ヒ得ルニ過キス
翌年ニ於ケル春物製造準備中ナル六月ニ於テ既ニ毛織物製造業者ニ對シ製造高ヲ單ニ千九百十八年春ニ於テ確實ニ賣却シ得ヘキ程度ニ止メムコトヲ依頼セリ蓋シ是等製造者ハ此ノ時期ニ於テ特ニ羊毛及勢力ヲ消費スルコト大ナルヲ常トスルヲ以テナリ

羊毛節約
運動及當
業者ニ對
スル勸告

當部ハ又之ト同時ニ前記製造ヲ標準品ノミニ限定スルコト及出來得ル限リ再製羊毛(反毛)又ハ綿交ヲ製造セムコトヲ依頼セリ之ニ對シ亞米利加毛織物及毛絲製造業者協會及全國毛織製造業者協會即チ全米國ニ於ケル毛織物及毛絲機業者ノ殆ト全部ヲ網羅スル前記二協會幹部ヨリ各會員ヲシテ右勸告ヲ實行セシムヘキ旨即答シ來リ一會社ノ如キハ前年同季節ニ於テハ綿交一、新規羊毛六ノ比ヲ以テ製出シタルニ本年ハ新規羊毛一、綿交六ノ比ヲ以テ製造スルノ手配ヲ了シ其ノ結果國民衣服ニ要スル新規羊毛ハ五割ヲ節約スルコトヲ得又其ノ他重要ナル數箇工場ニ於テモ一割乃至五割ノ節約ヲ爲スヲ得タリト云フ
右ノ外代表的被服仕立業者等トノ協議會ヲ開キ各種被服仕立型ヲ簡單ナラシムルコト及仕立型ノ數ヲ減少シ以テ被服地節約ヲ計ルヘキ問題ヲ提出セル結果六月末迄ニハ無益ナル切地ヲ出スカ如キ仕立型排斥絶叫案成リ之ト同時ニ全國仕立業協會ハ該案實行ニ關シ商業經濟部ト協力スル爲一委員會ヲ編成セリ

皮革保存
法

五、六月中皮革及靴型式ヲ單一ナラシメ以テ皮革節約ヲ計ル爲製革及製靴業者並靴卸賣及小賣業者ト協議ヲ爲スト其ニ當部員自ラ又別ニ調査研究スル所アリ其ノ結果皮革經濟實行ノ勸告書ヲ作成シ年度結了後之カ實行ニ移レリ

之ヲ要スルニ徒ニ手ヲ束ネテ原料、材料缺乏時期ノ現出ニ逢著スルコトナク遠ク慮リテ之カ豫防手段ヲ講スルコト是當部ノ方針トスル所ニシテ商業經濟部ハ即チ需給關係ヲ事前ニ調査シ之ニ基キ其ノ供給不足額ヲ決定スルノ機關トナリ且豫メ此ノ供給不足ニ對應スル爲斯業及其ノ專門家ヲシテ相協力セシムル

ヲ目的トスルモノトス而シテ之カ爲ニハ右ニ述ヘタル外諸種ノ材料及其ノ實況ヲ調査シタルカ必要ニ應
シテ更ニ前記以外ノ勸告ヲ爲サムコトヲ期セリ
本部員ノ氏名左ノ如シ

商業經濟
部長

「エー、ダブリュー、ショー」會社社長

議長 「エー、ダブリュー、ショー」

「シモンズ」鐵器會社社長

「ダブリュー、デー、シモンズ」

「ハーヴィード」大學大學院事業經營科學長

「イー、エフ、グー」

八時間労働委員會委員

「ジョージルーパー」

「デニソン」製造會社社長

「ヘンリー、エス、デニソン」

幹事 「ホリス、ゴッド、フレ」博士

第九章 州防務統轄課

創立及任
務

千九百十七年四月六日各州州防ニ關スル活動ヲ全國ニ互リテ協調セシムル爲一部局ヲ設ケ後之ヲ州防務
統轄課トセリ課長ハ國防會議議長ノ補助員タル「ジョージ、エフ、ポーター」氏ニシテ議長之カ一般的監
督ノ責ニ任ス

州防務會ノ設立

州防務會
設置及統
一ノ必要

宣戰布告ニ伴ヒ多數軍事機關ノ設置ヲ促進シ現在スル民團、慈善團及愛國の團體ヲ刺激シ軍事ニ活動セ

シムルニ至リ此等團體ハ自然ノ結果トシテ其ノ指導ヲ中央政府ニ仰クニ至リ國防會議之カ任ニ當ルニ至
レリ而シテ此等團體ノ事業ヲ各州中央機關ヲシテ誘導セシムルト共ニ華盛頓ニモ別ニ集中の中央機關ヲ
置キ以テ各州ニ對スル交換の機關ノ作用ヲ爲シ必要ニ應シテハ之ヲ統一調整シ以テ各州ニ於ケル機關ヲ
聯邦政府ノ用ニ供セシムルコトモ亦必要ナリ是ニ於テ四月九日陸軍卿ハ國防會議議長ノ資格ヲ以テ各州
知事及「コロンビア」區會委員ニ對シ國防會議ト相協力スル爲各州ノ資源、産業及其ノ他ニ關シ州ノ活動
ヲ代表スル廣汎ノ權限ヲ有スル州防務會又ハ之ト類似ノ委員會ヲ設置セムコトヲ依囑シ次テ五月二日華
盛頓ニ各州會議ヲ召集シ二日間會議ヲ續行シ先ツ陸軍卿之カ開會ヲ宣シタル後白館ニ於テ大統領ノ演說
アリ其ノ後ノ議事ニ於テハ海軍、内務、労働及商務諸卿、農務省政府委員、國防顧問委員等演說シ之ニ
依リ對獨戰爭上國家焦眉ノ急務ヲ詳細ニ各州代表者ニ吐露スルト共ニ特ニ各州防務ニ關スル活動ヲシテ
聯邦政府ノ活動ト連繫セシメ以テ其ノ國防ヲ最有效且至當ナラシムヘキ綱領ヲ陳述スルヲ得タリ
前記會議ニ於テ「ロードアイランド」代表者ノ提出シタル勸議ニ對シ「アイオーワ」州知事之ニ贊言シ官選
代表者等滿場一致ヲ以テ可決シタル決議ハ左ノ如シ

各州會議
ノ召集

各州會議
ノ決議

吾人聯邦各州代表者等國防會議ノ召集ニ應シ會議ニ參列シタルニ際シ國防會議カ其ノ遂行シツツアル
至難ノ事業並偉大ナル愛國の事業ニ對シ吾人ヲシテ益緊密ナラシムルノ機會ヲ與ヘラレタル好意ニ對
シ謝意ヲ表示スルト同時ニ現下ノ國難ニ臨ミ其ノ組織的活動ヲ以テ聯邦政府ヲ輔翼シ以テ其ノ有終ノ

州防務會
ノ設立及
其ノ委員
編成

成果ヲ舉クルヲ得ヘキコト故各州ヲシテ各種必要ナル方面ニ於テ十分ノ協同ヲ爲サシムルヲ得ヘキコトニ關シテハ吾人ハ全幅ノ信ヲ措クモノニシテ國州協同ノ一事ニ就テハ少クトモ吾人ハ爾今此ノ國民

の大事業ヲ翼賛シ以テ國防會議ヲシテ其ノ目的達成ヲ期セシムルモノナルコトヲ茲ニ表明ス
四週日ヲ出テスシテ州防務會ハ殆ト各州ニ組織セラレ之ニ依リ六月中ニハ國家の連鎖ハ既ニ成立シ州防務會ハ總テ各州知事ノ任命又ハ立法行爲ニ依リテ編成セラレ其ノ委員ハ毫モ政黨政派ノ別ニ依ルコトナク各階級ノ代表者及第一流ノ公民人士ヲ之ニ選任セリ但シ官設公安委員會ノ既ニ存立シアル諸州ニ於テハ該會ヲ其ノ儘戰時機關ニ變更シ又州會開會中ノ諸州中ニハ州會其ノモノノ立法行爲ヲ以テ州防務會ヲ設立シ之ニ對スル經費及其ノ廣汎ナル經費變更權ヲ議定セルモノアリ以上ノ如クシテ六月十八日迄立法作用ニ依リ設置セラレタル州防務會ハ十四ニ達セリ

州防務會
ノ設立ニ
對スル課
ノ努力統
轄

國防會議ハ最初ヨリ州防務統轄課ノ手ヲ經テ此ノ種立法ヲ推獎スルト共ニ各州知事及州會開會中ノ州會議長ニ對シ之ニ必要ナル資料ヲ送付セリ而シテ立法部休會中ナル爲此ノ種條例ヲ制定スル能ハサル諸州ニ於テモ州防務會ハ當該州公立戰時機關トシテ大ナル權限ヲ有シ唯知事ノ參與機關タルノミナラス各種特權ヲ保有セリ

縣防務會
及其ノ他
地方會
ノ設立

縣防務會 州防務統轄課ハ州防務會ノ設立ヲ翼賛誘導シタル外尙各縣又ハ下級地方團體ノ防務會制度ノ發達進歩ニ盡シタル結果大多數ノ州ニ於テハ縣防務會ノ有效ナル設立ヲ見ルニ至リ更ニ進テ之ヲ町村ニ

中央ト地
方トノ仲
介

及ホシタルモノ數州ニ上レリ抑地方會制度ハ苟モ個人的折衝又ハ地方的狀況ノ了解ヲ必要トスル事項ニ就テハ州會ヨリモ一層有效ナル企畫ヲ爲シ得ルモノナリト雖亦之ヲ利用シ一切ノ活動ヲ國家的ニ實行スルハ即チ組織完全ナル各州毎ノ統轄制度創設ヲ要スルヲ以テ州防務統轄課ハ此ノ方面ニモ努力シ速ニ州防務會ノ全部カ地方防務會ヲ合同シタル一體トナリ以テ聯邦政府ト國民各個ノ間ニ於ケル連鎖トナラムコトヲ期セリ

以上述ヘタルモノノ外州防務統轄課ノ當初ヨリ實行シタル事業三アリ即チ左ノ如シ

一 國防會議其ノ他各官省並華盛頓ニ新設セル官設戰時機關カ報告及助力ニ關シテ爲ス要求及勸告ヲ州防務會ニ移牒スルコト且之カ爲州防務會ニ助力ヲ與フルコト

二 地方的狀況ニ通スル州防務會ノ力ヲ藉リ戰局ノ進展ニ伴ヒ全國ニ於ケル重大ナル諸般ノ事情及開戰後既ニ諸州ニ起リタル必要並輿論ノ大勢ヲ明ニシ之ヲ華盛頓ニ於ケル當該聯邦官憲ニ通告スルコト

各州間ノ
仲介

三 各州ニ於ケル經驗交換機關トナルコト蓋シ之ニ依リテ以テ過ヲ反復スルヲ避クルノミナラス一州ノ好成績ハ他州ニ於ケル同様ノ計畫ヲ誘起シ且其ノ立案ノ基礎ヲ示スコトヲ得ルモノトス而シテ右ニ關スル報告ヲ移牒シテ一州ニ成功シタル事蹟ハ他ノ州全部ヲシテ之ニ倣ハシメ以テ有益ナル活動ヲ獎勵シ又國家ノ政策ニ抵觸シ若ハ概シテ不成功ニ了ルヲ常トスル計畫ハ之ヲ中止セシムルヲ得タ

食料原料ノ生産節約ニ關スル一切ノ事項

農務省ト密接ノ關係ヲ保チ之ト協力シ各州支部ニ對シ之ヨリ出ツル一切ノ資料及訓示ノ仲介機關ト爲ルコト

三 食料管理

合衆國食料管理局ニ對スル全國婦人協力ノ仲介機關ト爲ルコト

四 婦人産業

國防顧問委員會内勞働委員及勞働省ノ計畫實行ニ協力スルコト

五 兒童ノ幸福

勞働省兒童局長「ジューリア、ラスロップ」嬢ノ指揮及協力ニ依リテ活動スルコト

六 奉公的機關ノ維持

現在スル社會的機關維持ヲ目的トスル盡力ヲ刺激持續シ社會狀態ノ變化ニ適合スル新機關ノ成立ヲ獎勵スルコト並國民生産力増進ノ爲公共ノ健康及公德ノ保護ヲ爲スコト

七 健康及慰安

兵營業務補助委員會ト協同シ各支部ヲ經同會ノ獎勵シタル事業ニ對シ婦人ノ貢獻ヲ集中スルニ努ムルコト

八 教育の宣傳

文學、集會、演舞、行列等有ラユル手段ヲ以テ愛國心ヲ刺激シ且戰爭ノ原因及目的ヲ一般ニ了解セシムルコト

九 自由公債

自由公債募集ニ協力スルコト

十 内外人ノ救護

赤十字社及聯合國當該機關ト協力スルコト

婦人國防委員會ハ六月初華盛頓ニ中央及大西洋諸州支部代表者會ヲ開催シ十二州ノ代表者之ニ出席セリ

名譽委員

國民團體會議 六月十九日華盛頓ニ婦人國防委員會ト國民團體六十箇ノ代表者十九名トノ會議アリ出席者二百名ニ達シタルカ該會議ニ於テ國民團體ト婦人國防委員會トノ間ニ可及的完全ノ協力ヲ締結スル爲前記團長ヨリ成ル名譽委員會ヲ組織セリ

婦人委員
會ト他ト
ノ協力

又婦人國防委員會ハ婦人ノ協力ヲ要求セル諸省其ノ他官廳殊ニ内務、農務及勞働省並米國赤十字社、食料管理部、新聞委員會及兵營業務補助委員會ト切實ノ連絡ヲ保チ又大統領ノ四月二日附議會ニ對スル敕書ニ基キ六月五日各州支部及地方班ノ手ニ依リ自由公債數百萬弗ヲ引受ケ割當テ麵粉節約ニ關シテハ商

業經濟部、食料管理部ト協力スル所アリタリ

第十一章 國民科學研究會(國防會議科學研究部)

國防會議ハ千九百十七年二月二十八日左ノ如ク決議セリ

國防會議ハ茲ニ國民科學研究會カ國防及民福ニ資セムカ爲大統領ノ請ニ依リ設置セラレタルコトヲ認
ムルト同時ニ國民科學研究會カ國防會議ト協力シテ國防ニ關スル科學的研究ニ盡サムコトヲ求メ且國
民科學研究會ハ此ノ目的ノ爲三名以上ヨリ成ル委員ヲ選任シ内少クトモ一名ハ之ヲ華盛頓ニ常駐セシ
メ以テ國防會議長ト緊密ノ關係ヲ持續セシメムコトヲ欲ス

爾來國民科學研究會ハ國防會議科學研究部トシテ國防及戰時工業ニ關スル國防會議ノ科學的審議機關タ
ルノ任ニ當レリ

總說 國防ノ充實ニ對シ科學的研究カ絶大ノ價值ヲ有スルコトハ這次大戰ノ齎ラシタル重大ナル結果
ニシテ戰爭ノ勃發スルヤ英、佛、伊、濠、新西蘭、加奈陀、南阿等ニ於テ政府ハ軍事及工業上ノ諸問題
研究ノ爲科學者及實驗所ヨリ成ル機關ヲ設立スルニ至レリ而シテ此等機關ハ實際上軍事ニ貢獻シタルノ
ミナラス獨逸品ノ絶對的輸入杜絶ニ原因スル工業上ノ障害除去ニ奏功シ英、佛兩國製造工業家ヲシテ科
學的研究ノ必要ヲ體認セシメタルコト甚大ニシテ獨逸ノ軍事工業ノ根柢ヲ爲セル科學的方法ハ遂ニ聯
合側各政府並國民ニ依リ有效ニ採用セララルニ至レリ

國民科學
研究會
立
由

國民科學
研究會
立
由

國民科學
研究會
立
由

國民科學
研究會
立
由

千九百十六年四月潛航艇戰廢止ニ關スル米國ノ提議カ對獨國際關係ヲ危殆ナラシムルヤ米國大統領ハ學
士院ニ對シ國家ノ安寧福祉ノ爲迅速ニ米國科學的資源ノ統制ニ極力努力スヘキコトヲ要求シ且研究上必
要ナル一切ノ政府者、教育家並工業家ト協力セムコトヲ希望シ斯クシテ國民科學研究會ハ陸海軍技術部
長、政府ノ科學的研究部長官並教育工業方面ニ於ケル技術的研究團體ノ代表者等ヲ以テ成立シタルモノ
ニシテ要スルニ本會ハ全米國ノ主ナル科學及技術ニ關係アル學會及協會等ノ活潑ナル協力ヲ其ノ基礎ト
スルモノトス而シテ大統領ハ之ニ對シテ熱心ナル後援ヲ與ヘ且各省ヲシテ之ニ協力セシムヘキコトヲ約
言シ前記政府代表員ヲ任命セリ

國民科學研究會ノ平時ニ於ケル事業ハ純正及應用科學ノ各部門ニ於ケル研究ニ從事スルニアルモ現時ハ
專ラ軍事並工業方面ニ於ケル戰爭問題ニ没頭シ國防會議ト堅ク提携シ以テ創始的解決ヲ與フルニ在リ
國民科學研究會カ國防會議ノ一部局トナルヤ華盛頓ニ於ケル「マンセイ、ベルデイング」ヲ以テ其ノ事務
所ニ當テ國民科學研究會議長自ラ合衆國政府及各省ト直接協力シテ研究の活動ノ組織的統制ヲ計畫シ化
學、機械、醫學、衛生並物理等各種委員ニ對スル事務止ノ設備ヲ整ヘ農業及心理ニ關スル委員ニ對シテ
モ亦事務上ノ設備調整ニ就キテ手配ヲ了セリ物理委員會委員長ハ他方ニ於テ國民科學研究會副議長ニ任
セラレ「シカゴ」大學ノ許可ヲ得華盛頓ニ於テ專ラ本會幹事トシテ其ノ全力ヲ之ニ注クヘキコトヲ承諾セ
リ

研究會軍
務委員會
任ノ編成

本會軍事委員會ハ陸海軍其ノ他各省技術關係部ノ長官及國防會議ノ代表者一名ヨリ成ルモノニシテ軍事諸問題ノ審議立案ニ任シ且陸海軍及各省技術部職員中委員會ノ研究ニ從事協同セシムヘキ者ノ指定ニ從事セリ

外國部
員ノ任命
務及ノ任

國民科學研究會ノ特ニ第一ニ著手スヘキ問題ハ戰爭開始以來聯合諸國ニ於ケル科學者力遂ケタル絶大ナル努力ノ跡ヲ調査スルニ在ルヲ以テ各種科學的分野ヲ代表スル外國部委員ヲ任命シ之ヲシテ戰線ニ於ケル科學の進歩ヲ報告セシムルト共ニ軍事及工業上ノ未決諸問題ニ關スル協同研究ノ準備ヲ爲サシムルトトセリ而シテ此ノ結果該委員ハ頗ル重要ナル報告ヲ提出シ其ノ海外ニ於ケル協同事業中特筆大書スヘキ功業ハ彼ノ米國ニ派遣セラレタル英、佛、伊諸國代表者ニ匹敵スル科學使節ノ機關ヲ編成シタルコトニシテ是等使節員モ亦國民研究會ノ外國部委員ト同シク隨意ニ國防會議又ハ政府代表者ニ報告、建議等ヲ爲スコトヲ得ルモノトス

特種事項
研究ノ專

國民科學
研究會
員ノ任命
務及ノ任

國民科學研究會ノ活動ハ其ノ委員大多數ノ同意ナキ場合ト雖特殊事項ニ就テハ少數委員之ヲ專行シ得ヘク又國防會議ト密接ノ關係ヲ有スル特種委員會ニ於テ之ヲ決行スルコトヲ得
本研究會委員中三名ハ彼ノ軍需品總務部部長タルコトヲ囑セラレ戰時緊急ヲ告ケタル眼鏡ノ供給準備並瓦斯攻撃及防禦ニ必要ナル研究準備ニ就キ政府ノ必要トスル事業及費用ニ關スル該部ノ建議ハ前記委員カ該部ヲシテ爲サシメタル所ナリ又航海及船具ニ關スル特別委員ハ軍需品總務部ノ請ニ依リテ設置セラ

航海及船
具特別委
員
醫藥及衛
生委員
委員長兼
勸業部長

レ特ニ合衆國船舶院及緊急造船組合ニ對シ報告及建言ヲ爲サシムルコトナレリ醫藥及衛生委員長ハ亦同時ニ國防會議醫務部部長ヲ兼ネ以テ勢力ノ重複ヲ避クルコトトセリ
國民科學研究會ノ化學、機械及物理等諸委員會ニ提出セラレタル多數ノ問題ハ國防會議顧問委員會ヨリ照會シ來リタル報告若ハ質問ニシテ右ノ內化學委員會事業ノ範圍ハ極メテ廣汎ニシテ總テノ政府技術部ニ於ケル化學的研究事業ト密接ナル協同ノ下ニ進行スヘキモノトシ機械委員會及物理委員會ノ事業ニ關シテモ亦同様ニシテ特ニ物理委員會ノ活動ハ通信兵團長ヨリ國民科學研究會ニ對シ通信兵團ノ科學研究部ヲラムコトヲ囑セラレタルヲ以テ遣佛及本國飛行隊ノ爲測候、氣象事業並音響傳播及飛行機器ノ設計及仕様等ニ對シ諸般ノ計畫ヲ爲セリ

化學委員
會ノ協同
物理委員
會ノ協同

潛航艇戰
ニ對スル
國民研究
會ノ協同

最近海軍省ハ特ニ潛航艇戰ニ關スル一切ノ問題ヲ處理スヘキ一部局ヲ設ケ其ノ部長ハ國民科學研究會委員ニ依囑セラレ又其ノ大體ノ計畫案ハ海軍省各部局、海軍審議部及國民科學研究會間ニ最緊密ナル協力ヲ計リタル上海軍省ノ採用スル所トナレリ

知名ノ物理學者四十名ノ一團ハ國民科學研究會ノ召集ヲ受ケ佛國科學使節諸員ト共ニ潛航艇問題ニ關シ苦心評議ヲ爲シ且數團ノ物理學者等ハ潛航艇ノ攻撃及防禦ニ對スル諸種ノ工夫ニ關スル實驗及研究ニ從事シ前記特別部局ト協力提携スルコトトナレリ

農事委員
會

國民科學研究會農事委員會ハ該方面ニ於ケル研究上ノ協力ニ對シ統一並仲介機關タル地位ニ在リテ各種

人類學委
員會

心理學委
員會

關係研究者ヲ糾合シ且諸般ノ農業的企業ノ協力ニ就キ準備スル所アリタリ
人類學委員會ハ陸軍ニ建議シ身長最小限ヲ低下セシメ以テ合衆國民又ハ在住外國人ノ子孫ヲ補充兵ニ編
入スルヲ得セシムルヲ共ニ國軍編制上生來身長高キ米本國人ノミニ對シテ過大ノ負擔ヲ爲サシメサラム
コトヲ期シ又心理學委員會ハ新募兵ノ諸種軍務ニ對スル訓練、士卒ノ分類及階級別、視力問題、不能ナ
ル仕事、再教育及休暇中ノ訓練等軍事上ノ行動ニ心理學ノ原則適用ニ關シ詳細ナル立案ヲ爲シ陸軍省ハ
之ヲ採用シ補充兵ノ試験ニ備フル所アリキ
此ノ外國民科學研究會特別委員會ハ國民科學研究會ト州防務會活動ノ結果諸州ニ設ケラレタル研究委員
會トノ圓滑ナル協力ニ關スル研究結果ヲ報告スルノ任ニ當レリ

第十二章 海運委員會

創立、編
成、任務

千九百十七年四月二十一日國防會議ハ海上輸送ニ關スル一委員會ヲ組織セリ該委員長ハ合衆國船舶局長
ニシテ委員ハ國際海上商事會社長「フランクリン」、「コーストワイズ」船舶協會長「レイモンド」、商務省
航海局參事官「チューンバリン」、「スタンダード」石油會社海外輸送課長「ウオーデン」、「ダブリュー」、
「アール、グレース」會社副社長、「ジャーマン、イー、エム、ブル」會社副社長、「ブル」及「マンソン」汽
船會社長「マンソン」ノ諸氏トス
海運委員會ハ聯合與國ニ對シ船腹ノ供給増加ノ爲探ルヘキ最良方法ニ關シ合衆國船舶局ト共ニ國防會議

ニ建言シ又ハ同會議ニ所要ノ報告ヲ提出スルニ在リ

第十三章 內國水路輸送委員會

創立、編
成

內國水路輸送委員會ハ千九百十七年六月十五日ノ組織ニ係リ陸軍省技術長官「ブラック」將軍ヲ委員長ト
シ國防會議顧問委員會長「ウイラード」氏ヲ以テ輸送事務ニ關スル專任委員トシ他ノ委員ニハ「カンザス」
市「ミズーリ」河航運會社長「ダイッケ」氏（副議長）、「フイラドルフォア」取引所理事長「バートル」氏、全
國河川港灣會議前幹事「エリクソン」大尉、商業、交通並金融等諸會社重役「モルトン」氏、「ミシシッピ」
「ニュー、オルリオンズ」市商務局長兼「ハリソン、レーテンド」會社代表社員「サングラス」氏、工兵中佐
「ケラー」氏（秘書）等アリ

任務

本委員會ノ目的事業ハ內國水路輸送ニ從事スル諸會社（諸大湖上ノ輸送ヲ目的トスルモノヲ含ム）ヲ網羅
シテ戰時狀態ヲ一層能ク適應シ且內地水路ニ於ケル貨物輸送ノ便ヲ増加スルト共ニ其ノ效果ヲ有效ナラ
シメ一面之ヲ以テ貨車ノ供給不足ニ對應スルニ在リ

第十四章 工業登錄課

海軍審議
部工業準
備委員會
登錄課

海軍審議部工業準備委員會ニ於テ蒐集シタル實ニ一萬八千六百五十四部ノ工業登錄簿ヨリ成ル材料ハ千
九百十六年十二月十二日該委員會紐育事務所ヨリ國防會議ニ交付セラル而シテ此等登錄簿ノ目的ハ戰時
ノ供給資源トシテ工場ノ一般的適否並各工場特殊製品等ニ關シ陸海軍省購買課ヲシテ迅速ナル決定ヲ得

セシムル爲各製造工場ニ關スル十分ノ智識ヲ供スルニ在リテ該登錄簿ノ内容ハ悉ク分類作表セラレ國防會議附隨機關決定ノ頃ニハ既ニ追加登錄簿ノ編成ニ取リカカリタルノ狀況ナルヲ以テ該登錄簿記載事項ハ宣戰布告後國防會議ノ多數委員會及諸部ニ於テ利用スル所ト爲リタルノミナラス陸海軍省購買課ニ對シ參考ト爲リタル所亦決シテ尠ナラス其ノ六月三十日迄ニ登錄シタル工場數約二萬二千ノ多數ニ上リ而モ尙續々報告ニ接シツツアリ

第十五章 各省交涉委員會

創立及任

各省交涉委員會ハ千九百十七年三月二十七日ノ設置ニ係リ其ノ職務ハ國防事務ニ從事セル政府各部相互間ニ密接ナル連絡ヲ保チ協同ノ目的遂行ノ爲協力ノ手段ヲ指示シ以テ勢力ノ重複ヲ避クルニ在リ

編成

本委員會ハ行政十省及國民研究會ヨリ各一名ノ代表者並各州統轄課長官ヲ以テ組織セラルルモノニシテ國防會議幹事長之ヲ主宰ス而シテ委員會ハ前記目的ニ對スル勸告及指示ヲ審議シ其ノ實行方法ニ關シテハ國防會議幹事長之ヲ行政各部ニ報告スルモノトス

委員會ハ每週二回國防會議本部ニ於テ之ヲ開會セリ

第十六章 米國商業會議所協同委員會

商業會議所ノ協力

國防會議カ米國工業ト緊密ノ連絡ヲ保チ且米國ノ代表的實業家ノ協力ヲ得タル手段ノ一トシ米國商業會議所ヲ擧ケサルヘカラス米國商業會議所理事長ハ國防會議ト商業會議所トノ間ニ於ケル連鎖ト爲リ國防

行會報ノ發

會議ニ對スル協力ノ爲國防會議幹事長ノ補助員タル任ニ當リ斯クシテ國防會議ハ商業會議所ノ活動ト最密接ノ關係ヲ維持シ得タルノミナラス會議所ヲシテ多大ナル補翼ノ效果ヲ決定スルニ便ナラシメタリ

委員會ノ貢獻セル事業

本委員會ハ又時々會報ヲ發行シ之ヲ各地商業會議所ニ配布シ以テ國防會議ノ重要ナル活動ヲ知悉セシムルト同時ニ國防會議ノ著手セル運動補翼ノ最良手段ヲ教フルニ努メタリ

本委員會ノ事業ハ結局米國實業家ヲシテ政府ノ戰時的需要ニ關シ喚起セシメタル所決シテ尠ナラス且戰勝ノ效果ヲ收ムルカ爲喜テ有ラユル手段ヲ講セシムルニ與テ力アリキ

地方經理部長ニ對スル補翼ノ一端ヲ述フレハ國防會議ノ懇請ニ依リ任命セラレタル商業會議所所屬諮問委員會ハ特ニ軍需品購入ニ關シ多數都市ニ於テ地方經理部長ヲ補翼シ是等委員ノ實業及地方輸送狀況ニ關スル智識ニ關シ多大ノ貢獻ヲ與ヘ或ハ商品検査員ト爲リ或ハ又諸種軍需品販賣者一覽表ヲ作成シ若ハ有力ナル輸送及船積係員ヲ推舉シ以テ地方經理部長ト協同シ又ハ之ニ建言セリ而シテ其ノ特ニ效力アリタルハ地方經理部長カ迅速ニ大量貨物ヲ買入ルルノ必要生シタル場合ニ於テ忠言補翼ヲ與ヘタルコト是ナリ

第十七章 統計課

編制草案ノ起草

統計課ノ事業ハ千九百十七年四月九日ヨリ同年七月一日ニ至ル間之ヲ三分スルコトヲ得ヘシ而シテ就中最大ノ時間及勞力ヲ費シタルハ編制事業トス蓋シ戰時機關ノ新ニ創設セラルルモノ頻々タリシ時ニ於

統計的圖
表ノ作製

テハ純正統計問題ヨリモ寧ロ此ノ方面ニ注意ヲ要シタルヲ以テナリ四、五及六月中ニ於テ編制ニ關スル草案ノ起草セラレタルモノ數百ニ達シ其ノ各編制草案ノ全部又ハ一部ハ實行セラレ續々出現シ來ル新設委員會及部課ノ職權並行政上ノ關係ハ決定セラレ之ニ依リテ以テ事務ノ按配及圓滑ヲ期スルコトヲ得タリ其ノ他統計課ハ單ニ編制案ノミニ止マラス文書ノ發送及取扱、職員名簿ノ編纂、旅券ノ處理等ニ關スル制度事務ニモ從事セリ勿論此等事務ノ大部ハ國防會議ニ係ルモノナルモ國防會議以外ノ戰時的機關ヨリモ同様ノ勸告及補翼ヲ要求シ來リタルモノハ驚クヘキ數ニ上レリ

前記期間ニ爲シタル第二ノ重要事業ハ戰爭ニ對スル物資の準備事業ニ現ハル統計的材料ノ蒐集是ナリ即チ米國ニ於ケル軍需品工場ノ生産高ニ關スル表解、圖解等ヲ作製シ他方又戰時衛生勤務、飛行練習場ノ位置、各軍隊ノ馬匹數等凡ソ考案及實行ノ基礎タルヘキ事實ヲ蒐メテ之ヲ理解シ易キ圖形ニ表ハスニ多大ノ努力ヲ爲セリ

記帳書類
分類制度
ノ決定

第三ノ事業ハ即チ書類ノ分類及記錄ニ關スル制度ニシテ國防會議ノ成立當初ニ於テハ幾多局課ノ變更、併合及分離ハ之ヲ將來ニ期シタルヲ以テ此等各局課ハ當ニ有效且容易ニ擴張シ得ヘキ書類分類制度ヲ具備セサルヘカラサルノミナラス該制度タルヤ事業ノ膨脹ニ伴ヒ大ナル不秩序ヲ惹起スルコトナクシテ直ニ事務ノ併合又ハ分離ヲ爲シ得ヘキモノタルコトヲ要ス從テ全統計課員ハ各部局ノ記錄及書類分類制度ヲ定ムルニ約十週間ヲ費シ而モ各部局ハ何レモ爾後續發シタル事件整理ノ必要上當初豫期シタル以止ク

ノ膨脹ヲ遂ケタルモ尙餘裕續々トシテ併合及分離ヲ爲スコトヲ得タリ

第十八章 發明部(合衆國海軍審議部)

發明部ノ
創立

合衆國海軍審議部ハ「トーマス、エー、エヂソン」氏ヲ部長トシ著名ナル科學者及發明家ヲ委員ニ加ヘ千九百十七年二月十五日ニ於ケル國防會議決議ニ基キ同會ノ發明部トシテ行動スルコトヲ爲リ今ヤ當部ハ潛航艇ノ脅威ニ對スル抗敵手段ノ研究ニ熱心從事シツツアリ

第十九章 顧問委員會部屬諸委員會

第一節 鐵道輸送委員會

第一款 設立

任 務 鐵道輸送委員會ノ目的ハ全國ニ於ケル輸送設備ヲ以テ國家ノ對戰準備及軍事行動(武器及軍需品ノ積出ヲモ含ム)ニ對シ最有效果ナル援助ヲ與フルニ必要ナル組織ヲ編成スルニ在リ本委員會事業ノ大要ハ四月七日ニ於ケル國防會議決議ニ明ニシテ同會議ハ本委員長ニ對シ諸鐵道ヲシテ最大ノ出征軍ヲ輸送スルニ足ル運輸計畫ヲ立テシメムコトヲ要求シタルヲ以テ委員長ハ米國重要諸鐵道會社社長ニ打電シ本件審議ノ爲四月十一日(水曜)華盛頓ニ參集セムコトヲ請ヒタルニ約五十名ノ鐵道會社社長ハ求メニ應ジテ集マリ重要鐵道全部ヲ舉ケテ直接又ハ代理ヲ以テ該會合ニ出席セリ而シテ該會ニ於テ決議シタル事項ハ左ノ如シ

本會議ハ國防會議ノ召集ニ應スルモノニシテ會議ノ目的ハ國防會議ニ於ケル決議即チ「國防會議ハ顧問委員、ウイラード」氏ニ對シ諸鐵道業者ニ命シテ最大ノ出征軍派遣ニ必要ナル輸送計畫ヲ立テシメムコトヲ要求スルコトヲ決議スルモノナリ」ヲ目的事項トスルモノニシテ之ニ對シ本會ハ左ノコトヲ決議ス

六二

本席ニ會合セル米國諸鐵道首腦者ハ現下ノ國難ニ際シ報國ノ最大務ヲ致シ得ヘキ時機ト思考スル至高ノ思想ニ鼓舞セラレ茲ニ米國政府、各州政府並各自ニ對シ現戰役中吾人ハ大陸鐵道運轉制度ヲ協調スルト同時ニ個別的競争行爲ハ全然之ヲ放棄シ協力一致シ以テ全國輸送力ノ最大能率發現ニ努力セムコトヲ誓約スルモノトス而シテ此ノ目的達成ノ爲吾人ハ茲ニ一ノ團體的機關ヲ組織シ此ノ機關ニ時々鐵道ノ全部又ハ一部ニ對スル運轉方針ニ關スル詳規決定ノ權能ヲ附與スルコトニ同意ス前記機關ノ組織ニ關シ鐵道役員會議ノ選任ニ係ル委員會ハ下ノ建言ヲ爲ス

- 一 政府トノ協同行爲ニ關スル問題ハ總テ之ヲ米國鐵道協會特別國防委員會ニ附託セラレタキコト然ルトキハ彼ノ特別國防委員會ニ於ケル軍人乘車賃、軍用貨物運賃、軍用貨物規定及軍用輸送計算分科委員會ト同シ輸送分科委員會ヲ更ニ特別委員會内ニ組織スヘシ
- 二 特別國防委員會ハ約二十五名ニ増員ヲ爲スコト
- 三 特別國防委員會員二十五名ヨリ選舉シタル實行委員會ハ特別國防委員會長ヲシテ其ノ委員長ヲ兼任セシメ其ノ他ノ委員四名ハ委員長之ヲ選任スルモノトシ實行委員會ハ屢華盛頓ニ會合シ必要アルトキハ繼續會議ト爲スコト

四 國防會議ノ顧問委員會長「ウイラード」氏ハ專任實行委員タルコト

五 全鐵道ハ曩ニ採用シタル決議ニ明言セル權限内ニ於ケル一切ノ事項ニ關シテハ實行委員（五人ヨリ成ル）ノ指揮ニ從フコト、米國鐵道協會幹事長ハ實行ヲ確保スル爲全米國諸鐵道會社役員ヲ使用スヘキコト

右決議ハ現在ニ於ケル合衆國鐵道運轉計畫ノ基礎ヲ爲セルモノナリ

第二款 各種分科委員會

實行小委
員會
實行委員
會

諸鐵道ハ更ニ米國ニ於ケル六陸軍官衙内ニ實行小委員會ヲ設置シ此等小委員會ハ各陸軍官衙ノ長官ト事務上密接ノ關係ヲ結ヘリ決議中ニ述ヘタル五鐵道會社長ヨリ成ル實行委員會（間々之ヲ鐵道戰時委員會ト云フ）ハ華盛頓ニ常設的首腦部ヲ設クヘキ指令ニ基キテ設立セラレタルカ更ニ決議ノ主旨遂行並時局ニ適應スル爲必要ナル機關ヲ創設スルノ權限ヲ與ヘラレ華盛頓ニ於ケル此ノ機關ハ目下第十三街ノ一建

物中五箇ノ階床ヲ占メ局外研究者及副委員等ヲ合スルトキハ人員ノ數略四百八十五名ノ多數ニ達ス以テ如何ニ本問題ノ重大ナルカラ知ルヲ得ヘク實行委員會第一次會ハ四月二十三日華盛頓ニ開催セラレ爾來同市ニ於テ毎週二日乃至五日間議事ヲ爲セリ

實行委員
會

貨車分科
委員會

實行委員會ニ次テ重要ナルハ貨車分科委員會ニシテ是亦華盛頓ニ存在シ各鐵道會社ヨリ定期報告ヲ得之
ニ依リテ米國各地ニ於ケル車輛ノ狀況ヲ熟知ス而シテ同分科委員會ハ更ニ重要都市及貨物中心地ニ二十
八箇ノ小委員會ヲ有シ此等小委員會ハ各州鐵道委員會、商務省其ノ他代表の團體ト密接ニ協同シ華盛頓
ニ於ケル中央貨車分科委員會ニ每週數次ノ報告ヲ送り中央貨車分科委員會ハ亦實行委員會ニ週報ヲ提出
スルモノトス

實行委員
會ノ新機

四月十一日ノ決議ニ依リ華盛頓ニ於ケル實行委員會ハ輸送上必要アルトキハ甲地ヨリ乙地ニ車輛及機關
車ノ移動ヲ命スル權限ヲ有スルコトト爲レリ

二箇月間
移動量

五月一日ヨリ六月三十日ニ至ル二箇月間ニ命令ニ依リ不必要ノ地ヨリ公益上必要ノ地ニ移動セラレタル
空貨車ノ數十一萬輛ニ達シタリ但シ此ノ如キ權限ノ行使ハ公益上明白ニ必要アル場合ニ限リ決シテ特殊
輸送業者ノ私益ヲ圖ルカ爲ニ爲スヘカラサルモノトス

乘客輸送
其ノ整理及
其ノ效果

鐵道輸送量ハ未曾有ノ多量ニ上ルヘキヲ認メ實行委員會ハ特ニ各鐵道會社ニ對シ公共の需要ニ差支ナキ
限リ不必要ノ客車ヲ連結セサルコトヲ要求シタルニ未タ幾何ナラスシテ既ニ多大ノ效果ヲ收メ旅客列
車走行哩數ニ就キ謂ヘハ一年約二千四百萬哩ニ上ルヘキ節約ヲ見其ノ結果ハ年約石炭百五十萬噸、人員
三千人及著シキ多數ノ機關車ヲ節約シ之ヲ他ノ一層重要ナル業務ニ振向タルコトヲ得ルニ至ルヘシ

第三款 輸送ノ整理及軍隊輸送

實行委員
會ノ時々會
報ヲ發行シ
各會社ニ對
シ能率ノ増
大ヲ期シ得
ヘキ區域ニ
於ケル特殊
運轉方法ヲ
注意

シタルノミナラス車輛及機關車ノ狀態ヲ改善シ以テ尙一段ノ能力ヲ發揮シ且積載量ヲ増加シ又端末停車
場ニ於ケル車輛ノ取扱ヲ一層迅速カラシムルニ努ムヘキコトヲ勸告シタル結果一般鐵道ノ運轉能力ハ實
質上大ニ増加セリ而シテは一ニ會報ノ功ニ歸セスムハアラス

戰時輸送
量ト平時輸
送トノ比較

本年四、五及六ノ三箇月間ニ於ケル米國鐵道ノ輸送量ハ總計約百五十五億噸哩ニ達シ之ヲ前年同期ニ比
較シ約一割八分ノ増加又翌七月ノ輸送量ハ前年同月ニ比ストキハ實ニ二割ノ増加タリ而モ茲ニ注目ス
ヘキハ前年同期間ニ於テハ事業界頗ル活況ヲ呈シ從テ鐵道モ亦其ノ當時ニ於テハ全能力ヲ發揮シタルモ
ノト信セラレタルコト及本年輸送量ハ絶大ナルニ拘ラス其ノ使用シタル貨車及機關車數ハ前年ト毫モ増
減ナキコト是ナリ

兵隊輸送
努力ニ對スル

陸軍ノ要求ニ係ル三十二兵營ノ建築ハ鐵道ニ取リテハ稍難問題タリト雖著々輸送ヲ講シツツアルヲ以テ
竣成ニ大ナル遲延ナキヲ認ムルヲ得

軍隊輸送
努力ニ對スル

華盛頓分科委員會ハ經理局長「ベーカー」中佐ト協力シ貨車軍隊輸送ニ關スル一覽表及設備並順路ニ關ス
ル詳細表ヲ作製シ經理局長ノ認可ヲ經之ヲ諸鐵道ニ交付シ諸鐵道ハ之ヲ遺憾ナク實行スルニ足ル運轉方
法ヲ組織セリ而シテ前記委員會ヨリ合衆國各動員地ニ一名ノ代表員ヲ派遣シ之ヲシテ該陸軍官憲ト相協
力セシメ且在華盛頓委員會本部ト密接ノ連絡ヲ執ラシメタリ

今後ニ對
スル覺悟

今日ニ至ル迄動員部隊ハ満足ノ方法ヲ以テ輸送セラレ今後編成セラルヘキ動員部隊ニ對シテモ何時ニ
テモ十分ノ責務ヲ果スヘキ自信ハ委員ノ胸中ニ牢乎タルモノアリ其ノ他工業ノ勃興ト沿海航路及湖上船
舶カ他ノ役務ニ廻送セラレタルトニ依リ鐵道ハ目下非常ノ繁忙ヲ極ムルニ至レリト雖モ政府ノ作戰計
畫上必要ナル事項ハ勿論聯合與國ニ對スル軍需品及食料供給上必要ナル鐵道輸送モ亦敏速ニ之ヲ處理ス
ルヲ得ヘキヲ信ス然レトモ之ニ對スル實力試驗時代ノ早晚來ルコトアルヘキヲ覺悟シ委員會ハ冬期機關
車牽引力ノ寒氣ノ爲惡影響ヲ受クルノ結果輸送力ハ假令太打撃ヲ蒙ラサル迄モ明ニ困難ヲ生スルニ至ル
ヘキ時季ニ備フル對策ヲ講シツツアリ

機關車製
造高ク鐵
道業者ヲ
シテ其ノ
所有機關
車ヲ以テ
一層有效
ナル使用
法ヲ講ス
ルノ已ム
ヲ得サル
ニ至ラシ
メタリ又
北西地方
ニ於ケル
石炭供給
狀況モ頗
ル難問題
ニシテ北
西地方及
新英蘭ニ
對スル企
業合同組
織ハ本問
題ノ解決
ニ資スル
所アルノ
ミナラス
更ニ尙一
層有效ナル
解決策ヲ
講シツツ
アリ以上
二問題ノ
外輸送狀
態ニ關聯
シテ絶エ
ス開展シ
來ル問題
多々アリ

第四款 鐵道一般狀態及其ノ他

米國ニ於ケル鐵道問題ハ頗ル茫漠タルモノニシテ其ノ噸數ノ如キ普通人ノ想像以外ニ達シ斯ノ如キ膨大
ナル制度ハ何物ヲ以テスルモ之ニ比スル能ハサルモノアリ今簡單ニ數字ヲ以テ説明セハ左ノ如シ

米國鐵道
輸送量

全米國鐵道總輸送量

千九百十五年

千九百十七年(現況ニ依
ル見積)

差引増加

二、七四〇億噸哩

三、九四〇億噸哩

一、二〇〇億噸哩

前掲數字中單ニ其ノ増加數量ノミニテモ既ニ英、佛、獨、埃、露五國ヲ合セタル總鐵道一箇年間ニ於ケ
ル輸送總量ヨリモ多大ナリ而シテ實行委員ハ公衆ヲシテ右ノ事情ヲ詳悉セシムルト共ニ公共ノ協力ヲ刺
激スル爲問題ノ難點ヲ記述セル多數説明書ヲ發行セリ

電氣鐵道
協會國防
委員ノ協
力

米國電氣鐵道協會國防委員ノ下ニ鐵道實行委員長ト協力スヘキ一團體(委員長「ハリス」將軍)組織セラレ

米國鐵道協會ノ特別國防委員ト協同シツツアリ
右ノ外七月一日以前鐵道實行委員會ト國防會議內國水路輸送委員會トノ間ニ共通目的實施ノ爲協定成立
シタリ

統制上ノ
效果

之ヲ要スルニ米國全鐵道ハ現在單一統一體トシテ運轉シ實質上一年前ト全ク同一ナルニ拘ラス其ノ效果
ハ却テ二割ノ増加ヲ示セリ且華盛頓ニ中央監督機關ヲ設置シタルニ依リ一地方ニ於ケル非常且緊急の狀
況ヲ救済スル爲一時ニ車輛及機關車ヲ適宜按配スルヲ得ルニ至レリ

鐵道工ヲ
以テ鐵道
除ノ鐵道
成

特別國防委員會ノ爲シタル事業中舉クヘキモノハ

輸送力増
加ノ爲メ

一 鐵道熱練從業者ヲ以テ豫備工兵九箇聯隊ヲ編成シタルコト（右ハ佛國鐵道ノ恢復並英軍ノ背後ニ於ケル佛國鐵道ノ運轉ニ助力スルヲ目的トス）

二 西「ヴァージニア」ニ於ケル海軍用炭ヲ太平洋岸迄運搬スルニ當リ無蓋貨車ヲ廢シテ有蓋貨車ヲ使用シ得ルノ制ヲ按配シ以テ太平洋岸ヨリ東部地方迄無蓋貨車ヲ空車ニ儘牽引スルノ不經濟ヲ除去シタルコト

三 政府代表者聯邦會議議員及商業界代表者ヨリ特別國防委員會ニ提起セラレタル車輛ノ供給並運轉優先的待遇ニ關スル請求ノ按配

四 輸送量ノ最大ヲ期スル爲メ車輛ノ轉換ニ必要ナル準備

五 軍隊及諸種軍需品ノ輸送ニ關シ軍事當局ト協同計畫ニ對シ完全ナル連絡ヲ執リタルコト等

運送委員

本委員會長ハ亦前巴黎馬運河技師長「ジョン・スチーヴンス」氏ヲ會長トスルニ委員會ヲ組織シ內委員四名ニハ鐵道事業界ニ有名ナル人士ヲ任命シタルカ是等委員ハ大統領ノ命ニ依リ露國ニ派遣セラレ目下同國鐵道ヲ視察シ特ニ米國ノ提供シ得ヘキ事物及材料並人物等ニ關スル狀況ヲ調査シツツアリ

第二節 電信電話委員會

第一款 總說

電信電話委員會ハ鐵道運送委員會ト協力シ以テ全國ニ於ケル電氣通信設備ヲ戰爭ニ集中セリ而シテ右委員會ニ於テ代表セラルル者ハ米國電話電信會社、西部聯合電信會社、電信及海底電信會社並其ノ他主要電信會社ニシテ此等諸會社協同連絡ノ結果政府ノ事務ハ到ル處ニ於テ優先的の特權ヲ與ヘラレ華盛頓政府ヲシテ各地、各方面ニ對シ即時通信ヲ連絡セシメタルノミナラス諸事業ニ對シ緊急的の援助ヲ與ヘタルコト甚大ナリ

直接援助

電話、電信諸會社ノ軍事的事業ハ明ニ之ヲ二別スルコトヲ得其ノ一ハ直接援助ニ關スルモノ、他ノ一ハ間接援助ニ關スルモノトス而シテ前者ニ屬スル援助ハ陸海軍通信隊ニ要スル通信ノ發達、進歩並軍事通信學ノ促進即チ是ニシテ其ノ他陸海軍當局ニ對シ各種多大ノ援助ヲ與ヘ特ニ通信隊ニ對シ十四大隊以上ノ士卒ヲ供給シタルカ如キモ亦之ニ屬シ第二ノ間接援助ハ諸電話會社カ各省及軍需品製造事業ノ爲全國各地ニ互リ工場ニ於ケル通信設備及人員ノ増加ヲ圖リタルコト是ナリ

間接援助

電話、電信諸會社ヨリ士卒ヲ供給スヘキ十四通信豫備大隊ハ七月一日ニハ殆ト完成ノ見込ニシテ其ノ大部ハ戰時編制トシ士官ノ殆ト全部ハ有給トス右ノ內數箇大隊ハ既ニ戰地ニ於テ正規軍士官ノ訓練ヲ受ケツツアリ而シテ爾他ノモノト雖操練及講義ヲ受ケツツアルノミナラス操練不可能ノ地ニ於テハ特ニ通信隊ノ軍務及戰術ニ關スル教科書ヲ配布セラレタリ

會社員ノ
陸海軍檢
査官任命
其ノ他

海上觀測所、海底電線終點及墨西哥國境ニ於ケル諸電信會社員ハ陸海軍檢査官ニ任命セラレ貢獻シタル

所尠少ナラサルモノ或ハ會社ノ内ニハ從業員白紙名簿ヲ提出シ依テ以テ政府ヲシテ適材ヲ適所ニ置クノ自由ヲ與ヘタルモノ或ハ又豫備通信隊ノ要員ノ教育ニ協力シツツアルモノアリ

第二款 設備

政府ノ兵營建築計畫ニ伴ヒ常ニ電信、電話ヲ設備シ以テ各部隊間ニ敏速ナル交渉ヲ爲スヲ得セシメ殊ニ野營地ニ於テハ各部隊ノ便宜ヲ計リ對内及對外兩面ニ互リ永久的電話ヲ設備セリ

戰爭ノ必要上七月末迄ニ通信技師ノ企畫シタル新主要幹線中特ニ舉クヘキモノハ華盛頓、紐育並ニポスト
ン間ニ於ケル海底電線ニシテ該線ニ依リ華盛頓ト各種軍需品及軍用材料製造供給ノ大中心地ニシテ且
陸海軍主要中心地タル左記地方トノ間ニ於ケル連絡ヲ爲スコトヲ得ヘシ

「ボルチモア」「ウイルミントン」「フライドファイア」「トレントン」「ニューアーク」、紐育、「ブリックジャボート」「キューハーゲン」「バートフォード」「プロヴィデンス」「ボストン」

元來海底電線材料取得ハ困難ナルニ拘ラス前記電線工事ハ満足ニ進捗セシムルコトヲ得タリ右ノ外市俄古ヨリ「イリノイス」大湖水ニ至ル延長一萬二千哩ノ海底電線ハ進捗中ユシテ此ノ他重要地點ヲ接續スル諸線ハ目下企畫中ニ屬ス

戰時各種業務ノ繁忙ヲ極ムヘキ主要地ニハ配電裝置ヲ増設シタルカ特ニ華盛頓ニ於テハ戰時業務ノ増加ヲ兼リ配電設備擴張ノ爲努力シタル所甚大ニシテ地下線ノ敷設亦頗ル多ク各官廳事務ノ増加ハ遂ニ散在

國民軍兵營ノ位置確定スルヤ完備セル電話設備ハ敏速ニ進捗シ通信材料ノ船積モ亦速ニ運ヒツツアリ
飛行練習場、橋梁監守、給水其ノ他公共事業並各種戰時工場等苟モ遲滞ナキ執務ヲ要スル場所ニ於ケル
通信設備ニ關シテハ均シク緊急の方策ヲ立テ且鐵道ヲシテ大軍ノ輸送ヲ圓滑ニ遂ケシムル爲特ニ其ノ電

話設備ニハ注意シタリ又沿岸防禦電話線ノ事業ニシテ改築、修繕ヲ要スル箇所ハ著々修理ヲ加ヘ又新英
蘭沿岸防禦計畫ニ對シテハ數百哩ノ海底電線ヲ敷設中ニシテ而シテ此ノ海底電線ト陸上線トノ連絡ハ目
下進行中ニ屬ス

此等事業ノ外多數ノ電話、電信掛員ハ政府ノ求ニ應ジ各種通信問題ノ解決ニ努力シ他方外國派遣員ニ對シテハ電話及電信事項ニ關スル報告ヲ送付シ其ノ他諸電話會社ハ無線電信用高電柱設備ヲ命セラレ多數電話會社技師ハ之ヲ爲特ニ研究所ニ於ケル實驗ニ全力ヲ傾注シツツアリ。

第三節 給養委員會

入札廣告
目止ノ建

右委員ノ外尙一名ノ陸軍將校アリテ是等委員ヲシテ陸軍需要額ヲ知悉セシムルヲ職トセリ

七二

購買部ニ對スル建言 陸海軍兩省平時ニ於ケル普通購買法ハ入札者ノ爲廣告スルヲ常トシタルモ本委員
會ハ戰時ハ平時ト異リ且政府需要額ハ平時ニ數倍スルヲ以テ入札廣告ハ頗ル重大ノ不利益アルヲ慮リ政
府購買部ニ對シ重要物品ノ大需要量ヲ不時ニ廣告スルハ製造工業ヲ擾亂シ市場ヲ刺激シ物價ヲ暴騰セシ
ムルニ過キサルコトヲ建言シタル結果四月十二日陸軍卿ハ向後入札廣告ヲ廢スヘキヲ宣明セリ而シテ之
ニ依リ政府ハ開戰當時ノ値段ヲ以テ多量商品ヲ購フコトヲ得タルノミナラス物ニヨリテハ却テ之ヨリモ
低廉ニ買入ルルコトヲ得タリ

仕樣書ノ
變更

仕樣ノ整齊及各種分科委員會ノ編成 從來政府ノ使用シ來リタル標準仕樣ハ現時局ニ於ケル要求額ニ比
シ頗ル僅少ニ且世界ノ貿易狀況亦平調ナリシ時代ノ要求ニ應シ作製セラレタルモノニシテ米國ノ參戰ニ
依ル貿易ノ根柢的變化、政府需要額ノ莫大ナル増加ハ茲ニ靴、各種織物類其ノ他諸物資ノ仕樣ニ大ナル
變更ヲ加フルノ已ムナキニ至ラシメタルト他方米國及聯合諸國ノ大需要ニ伴フ原料供給制限ノ必要トハ
遂ニ本委員會ヲシテ當該官憲ト協力シテ新仕樣ヲ作製シ以テ取得困難ナル需品供給問題ヲ解決セシムル
ニ至レリ

各種分科
委員會ノ
業務及座
業動員

本委員會ハ自己ノ參考及補助ニ資セシムル爲夫々綿織物、毛織物、編物、靴、皮革製裝具類、織詰等ノ
單一事業ヲ職責トスル各種分科委員會ヲ組織シ産業動員ヲ行ヒ以テ一般工場ヲシテ政府用品ノ製造ニ從

織詰業者
大會

事セシメ之ニ依リ著シク膨脹シタル政府ノ要求ニ應シ各種需品製造能力ノ増加ヲ見ルヲ得タリ
織詰業者ノ協力 六月初本委員會内ニ一課ヲ設ケ陸海軍ノ食料、糧秣購入ニ助力セシムルコトトシ六月
十四日華盛頓ニ織詰業者大會ヲ催シ陸海軍ニ於テ需要スル織詰食料及之カ取引ノ統一ニ關シ協定スル所
アリ同業者中全國織詰業者組合員ニアラサル者ハ總テ其ノ前日會合シテ前記大會ニ代表委員ヲ送ルコト
ヲ決定シ且之ヲ選任セリ全國織詰業者組合員(全米國同業者數ノ約八割ヲ占ム)ハ同組合幹事之ヲ代表シタ
ルカ大會ノ結果同業者一同ハ陸海軍需品ニ對スル了解ヲ得ルト共ニ之カ供給計畫ヲ立ツルコトト爲リ給
養委員補助ノ爲別ニ協力的委員ヲ選任シ後數次ノ會議ニ於テ陸海軍用ノ豆、麥、蔓豆、「トマト」等ノ
織詰製造ニ關スル協定ヲ爲シ且其ノ製造高ノ割當ヲ爲セリ

效 績

元來給養委員ノ事業ハ主トシテ異常ノ困難ニ伴フ商品即チ需要額ハ多大ニ原料ハ不足シ加フルニ一般人
民ノ消費ニモ充用セラルル爲特別劇甚ナル競争ヲ伴フヘキモノニ關スル處置ヲ爲スニアルヲ以テ至難ノ
事業ナリト雖優先權ノ取得、諸物價ノ暴騰防止、全國製造業者ニ對スル割當、仲介業者ノ排除、政府各
省間ノ競争廢止等ノ方法ヲ講スルコトニヨリ政府ヲシテ購買費ヲ節約セシメタルコト尠シニアラサルナリ

第四節 原材料委員會

參戰前ニ
於ケル原
料ノ狀況

大戰勃發前米國內務省ハ軍事上ノ重要礦物ト題スル一書ヲ公ニシ米國ハ由來鐵脈甚タ少キヲ以テ戰時ニ
ハ忽チ之カ不足ニ苦シムニ至ルヘキカ故ニ平時ニ於テ其ノ消費節減ヲ計ルト共ニ他方保護制度、生産費

低減ニ依ル低率、鑛屑ノ利用、新鑛脈ノ探掘、發見ノ獎勵、代用品ノ進歩發達等ヲ企ツルノ必要アルコトヲ知ラシメタルカ參戰前二箇年間ニ於テ既ニ鑛物其ノ他諸種原料ノ餘剩貯藏品ノ大部ヲ消費シ宣戰直前ニ於ケル原料品ハ殆ト先物契約ニ依賴スルノ外ナキ狀態ニ在リタリ

原料調査

是ニ於テ本委員會ハ取敢ヘス作戰用原料ノ一般狀況特ニ從來輸入ヲ仰キタル硝酸鹽、黃鐵鑛、「ゴム」、雲母、錫、白金及棕櫚油等ニ關スル調査ヲ開始スルコトトシ鑛山局亦精細ナル調査ヲ遂ケ本委員會ハ此等調査ヲ以テ國防會議ニ對スル建築ノ基礎トセリ

協同委員會ノ編成、任務

協同委員會 供給資源、生産並其ノ増加、貯藏額、需要見込額及代用品ニ關スル研究ヲ容易ナラシムル爲左記各種產業界ニ於ケル主要代表者ヲ以テ夫々協同委員會ヲ組織セリ

「アルコール」、「アルミニウム」、無煙炭及有煙炭、石棉、「マグネシウム」、屋根材、直鎗、「セメント」、化學藥品、銅、材木、雲母、白銅、油、「ゴム」、鋼及鋼製品並亞鉛

顧問委員會ノ編成、任務及效果

又此等協同委員會ニ隸屬シ各特殊ノ領域ヲ有スル顧問委員會ヲ組織セリ例ヘハ左記鋼及其ノ製造ニ關スル顧問委員會ノ如キ是ナリ
銑鐵、鐵鑛、同上湖上運送、錫飯、鋼飯、線索、可鍛鑄鐵、鐵合金、鋼管

此等顧問委員會ハ各地方ニ於ケル當該產業界ノ名士ヲ選ヒ其ノ職務トスル所ハ原料材料委員會ヲ補助シ報告ヲ蒐集シ供給資源ヲ動員シ當局者ト協議シ以テ政府ノ行動ニ便セシムルニ在リ而シテ此等顧問委員會

中ニハ其ノ業務施行ヲ一層有效ナラシムル爲華盛頓ニ本部ヲ設ケタルモノアリ又經驗ニ依レハ政府ヲシテ市價以下ノ安價買入及引渡ヲ速ニ了スルヲ得セシメタル點ニ於テ甚タ有效ナリキ

購買參與ニ依リ政府ニ安價ニ購買セシムルヲ得タル點

購買參與 原料材料委員會ハ元來購買團體ニアラサルモ其ノ購買參與ハ政府ヲシテ本年三月頃市價約三十五仙ノ銅四千五百萬封度ヲ十六仙三分ノ二ニテ購買セシメ又海軍用鋼鐵約五十萬噸ヲ市價ノ三分ノ一乃至五割安ヲ以テ或ハ亞鉛及鉛ノ如キモ市價ノ三割三分即チ三分ノ一乃至五割安ヲ以テ多量ノ買入ヲ爲スヲ得セシメタルノミナラス尙此ノ外市價ノ先高見込ノ繼續ヲ打破シ且是等實業家ヲシテ時局ニ際シ喜テ商品値下ニ應セシムルニ多大ノ效力アリタリ

原料材料委員會ノ一般的效果

原料材料委員會ハ協同委員會、官衙等ヨリ得タル信賴スヘキ報告ヲ以テ一般的研究ノ基礎トシ生産者ト消費者タル米國政府及聯合諸國トノ間ニ立チ直接又ハ軍需品總務部ノ代表者ヲ介シ間接ニ需給整理ノ仲介機關ト爲リ時局ニ重大ナル關係ヲ有スル價格ノ決定ニ關シテハ慎重審議ヲ費シタリ
之ヲ要スルニ本委員會ハ價格決定ニ關シ何等表面ノ權力ナキニ拘ラス毫モ市場ヲ擾亂スルコトナク原料品原價ヲ値引セシムルコトヲ得タルハ大ナル成功ト謂ハサルヘカラス

第五節 技術及教育委員會

任務及目的

本委員會ハ大要技術部及教育部委員ニ二分スルヲ得而シテ技術部委員ハ技術ニ關スル政策問題ノ解決ヲ目的トシ其ノ擔當委員ハ各技術團ヨリ夫々選任推舉シ教育部委員ノ選任モ亦之ニ準據シタルカ一方五月

五日華盛頓ニ於テハ各種百八十七大學校長會議ヲ開催シ以テ各種大學校及國家間ニ於ケル有效ナル親善關係ノ成立ヲ圖レリ

技術部ノ
任務事ノ

技術部委員 各方面ノ技術的職業ヲ統轄シ國防ニ貢獻スル爲格段ノ努力ヲ爲シ或ハ圖解ヲ作製シ或ハ印刷物ヲ發行シテ技術者ノ軍隊ニ入ルニ當リ最有效ナル方面ヲ指示シ陸海軍ニ對シテハ技術者ヲ得ルノ道ヲ教ヘ且適材ヲ適所ニ置クコトヲ企テタリ而シテ技術部委員ノ事業中最重要ナルハ左記事項遂行ノ爲本部設置案ニ關スル企圖是ナリ

一 陸海軍及政府ノ公務ニ必要ナル技術練習ニ關スル一定要求充足方法

二 技術熟練者補給手段

而シテ右事業ハ目下尙進行中ニ屬スト雖之ニ關スル種々ノ建言ハ既ニ提出済ナリ要スルニ專門家ヲ以テ選任シタル技術部委員會ノ事業ハ未タ完成ノ域ニ達セサルモ其ノ進歩大ニ見ルヘキモノアリテ米國技術家中ニハ政府ニ對シ最有力ナル建議ヲ爲シタルモノ多シ

教育部ノ
事業

米、加兩
大學交換
訪問

教育部委員 華盛頓ニ於ケル高等教育機關會議開催以來通信連絡ノ途ハ開ケ之ニ依リテ諸學校ヨリハ政府ニ對シ建議ヲ爲シ政府ヨリハ諸學校ニ對シ勸告ヲ爲スコトヲ得ルニ至リ又米國諸學校ヲシテ一層國防ニ資セシムルノ方法ニ關シ華盛頓其ノ他ニハ屢會議開催セラレ夫々相當ノ效果ヲ舉ケツツアリ其ノ他本委員會ノ戰時ノ教育政策ニ對スル努力ハ米國及加奈陀兩國大學間ニ教育代表者ノ交換的訪問ヲ爲スノ制

化學的資
源ノ研究

度ヲ設ケ加奈陀教育機關ノ戰時的經驗ヲ米國諸學校ニ利用セシメタリ

化學的資源ノ研究ヲ完成シ戰時生産用原料ノ輸入及輸出並其ノ代用品品目表ヲ作製シ諸般ノ用ニ供シ且交戰國ノ輸出禁制品ニ關シ特ニ詳細ノ調査記録ヲ作リタリ

棉花工業
ノ研究

右ノ外棉花事業統一研究ノ爲製造技術係ヲ設ケ以テ棉「リンネル」ノ供給資源開發ノ見込ヲ調査シタルカ之ニ際シテハ棉花取引業ノ助ヲ藉リタルコト頗ル多大ナルモノアリ

第六節 勞働委員會

第一款 設立

參戰前ニ
於ケル勞
働委員會

勞働委員會ハ米國參戰前ヨリ既ニ活動ヲ開始シアリタルモノニシテ本委員長ハ千九百十七年二月二十八日組織的勞働運動代表者ヲ華盛頓ニ召集シ勞働者ノ地位ニ關スル事項ヲ議決シ該會議ニ於テハ勞働者ノ地位ニ關シ十分ナル審議ヲ重マルト同時ニ政府後援ノ爲喜テ各種運動ニ從事スヘキ方法ヲ議定セリ委員長ハ又米國勞働聯合會長ノ資格ニ於テ三月九日該會幹部會ヲ、次テ十二日華盛頓ニ勞働者大會ヲ開キ戰爭ニ對スル勞働者ノ態度ヲ議決セリ

三月九日
開會ノ幹
部會及其
議ノ主要決

前記三月九日ニ於ケル幹部會ハ三日ニ亙リ開會シ平戰時ニ於ケル米國勞働者ノ根本的主義及現時局ニ對スル地位ニ關シ宣言書ヲ作成セリ而シテ該會出席者ハ幹部ノ外聯合勞働組合及國際聯合勞働組合七十九、獨立組合五及米國勞働同盟會五、支部ノ代表者百四十八名ニ達シ其ノ決議中最重要ナルハ全力ヲ盡

幹部委員
及各種副
委員會ノ
成立

シ政府ノ爲神聖ナル勞働ノ意義ヲ發揮セムコトヲ期スルニ在リタリ
勞働委員會會長ハ組織問題ニ關シ千九百十七年四月二日華盛頓ニ會議ヲ召集シタルカ主要ナル國際勞働
組合、鐵道勞働組合、雇主、主要産業ノ安全技師並商業、交通、金融及市民ノ代表者等總數百五十名之
ニ臨席シ其ノ結果ハ諸種團體間ニ於ケル統一永久の組織成立シ實行委員(全米勞働同盟組合、公民勞働同
盟組合、製造業者協會、技術協會、火災豫防協會、火災保險人局、電飾協會、安全會、安全博物館、使
用者協會、青年「キリスト」協會、産業教育獎勵會、「イリノイヌ」「インディアナ」「オハイオ」及西「ベムシ
ルバニア」石炭坑夫聯合會議、採鑛冶金協會等ヲ代表スル委員十四名ヨリ成ル)ノ選任ヲ了シ尙別ニ左記
事項及其ノ他ヲ目的トスル諸委員會ノ成立ヲ見ルニ至レリ

一 賃銀及勞働時間

二 仲裁及和解

三 安全勞働

四 婦人勞働者

五 通報及統計

六 生活費及家事經濟

第二款 英國勞働使節

英國勞働
使節

加奈陀勞
働使節
五月十五
日開會
特別會議

佛、伊勞
働代表者

勞働委員會會長ハ英、米間ノ善良ナル了解ヲ求メ且交戰國ニ於ケル勞働狀態ニ關スル經驗ヲ知得セムコ
トヲ希望シ四月十二日英國首相「ロイド、ジョージ」氏ニ宛テ英國職工代表者ヲ遣米英國委員「バルフォ
ア」氏一行ニ加ヘムコトヲ電請シタルニ英國首相ハ直ニ之ヲ容レ「パウワーマン」、「トーマス」兩氏其ノ他
數名ヲ勞働委員ニ指名セリ又加奈陀政府ニモ交渉ノ結果全國鐵道電信協會副總裁「ロバートソン」氏及加
奈陀商業勞働會議議長「ワッター」氏兩名米國ニ派遣セラレ五月十五日華盛頓ニ開催ノ勞働委員會特別會
議ニ出席セリ右會議ニ於ケル出席者ハ非常ノ多數ニ上リ演說亦甚タ多ク殊ニ「パウワーマン」、「トーマス」
兩氏ノ如キハ特ニ明快且有益ナル演說ヲ爲シ諸願書ノ提出亦多數ニ上リタルカ此等諸願書及議事録ハ悉
ク第六十五回聯邦議會元老院議事録第八十四號ニ英國勞働使節ノ米國勞働者ニ對スル戰時使命ナル表題
下ニ印刷ニ附シ米國各地及加奈陀ニモ多數發送セリ五月十五日「ウイールソン」大統領ハ本會委員及其ノ賓
客ヲ自館ニ招待シ英國勞働代表者ハ「ピッツバーグ」、「市俄古」、「クリーヴランド」、「アルバニー」、「スケネ
タタデー」、「ボストン」及紐育ノ各地ヲ偏歴シ非常ノ款待ヲ受ケ各地ニ於テ大英國工業問題ヲ論及セリ
前記會議ニハ單ニ英國代表者ノミナラス佛、伊兩國ヨリモ亦代表者ヲ列席セシメタルハ注目ニ値スヘキ
コトニシテ四月三十日實行委員會公會ノ席上ニ於テ前佛國勞働大臣「グイグイアニ」氏ハ一場ノ演說ヲ爲
シ又七月一日ノ實行委員會ニ際シテハ前伊國勞働大臣「フランツエスコ、ニッチー」氏之ニ臨席シ兩國
ニ於ケル勞働者ノ態度及利益ニ關シ演說ヲ試ミタリ

第三款 國民委員會

四、五、六ノ三箇月中ニハ多數ノ分科委員會組織セラレ全國各地ノ雇主及被傭者ヲ問ハス有ラユル職業ヨリ適當ナル男女代表者ヲ選出セリ

構成及任

一 國民勞働賃銀及時間委員會

本委員會ハ勞働團體及雇主ノ代表者ヨリ成ルモノニシテ該委員會ハ戰時勞働狀態ニ關スル政策審議會ニ其ノ幹部ヲ出席セシメ聯邦法律ニ定ムル賃銀及勞働時間ノ標準ニ關シ助力セシムル所アリタリ

構成及任

二 國民仲裁及和解委員會

本委員會ハ七十五名ノ委員即チ賃銀生活者、雇主及一般民ノ三團體ヨリ成リ實行委員ハ五名トス本委員會ハ爭議裁決ヲ目的トスルモノニアラスシテ唯和解ノ調ハサルトキ始テ兩爭議者間ニ裁定ヲ爲スモノトシ此ノ場合ニ於テハ兩爭議者カ夫々自己ノ裁定者ヲ選任スルモノトス又本委員會ハ國防會議ノ命ニ依リ其ノ顧問委員會、聯邦仲裁局、米國勞働者和解委員及各州和解局ト協力セリ

任務及事

三 國民安全勞働委員會

本委員會設置ノ主ナル動機ハ戰時中缺クヘカラサル職務カ二箇ノ目的ノ遂行即チ生命及生産力ノ保全ニ俟タサルヘカラサルニ在リ而シテ本委員會ハ勞働者ノ健康保全手段トシテ講演、活動寫眞及雇

主、職工ニ對スル文學的講演等ヲ催シ其ノ場所トシテハ教會、商業會議所、合宿所、雇主組合、商業組合其ノ他各種ノ會場等ヲ利用セリ又本委員會ハ政府ニ對シ軍需品製造事業ヲシテ最大效果ヲ舉ケシムルト同時ニ勞働者ノ健康ト能率保全ノ爲最正當ナル標準ヲ雇主ニ強制セムコトヲ提議セリ蓋シ理論上軍需品工業軍ハ軍國政府ニ取リ實ニ軍隊ニ次キ極メテ重要ナル機關ナレハナリ要スルニ本委員會事業ノ根本主旨ハ一般國民ノ倚賴スヘキ重要産業ニ於ケル勞働者ノ健康、幸福及能率ノ三換言スレハ被傭者ノ勞働及生活狀態ノ保全並改善ヲ目的トスルモノニシテ特ニ鑛山、鐵道、工場、倉庫其ノ他公設營造物ニ關係アルモノトス

第四款 國民委員會部屬會

一 被召集者家族救護部會

創立及任

本委員會部會ハ千九百十七年四月三十日陸海軍ニ召集ヲ受ケタル者ノ家族救護ニ從事スル目的ヲ以テ設立セルモノトス

本委員會部會ハ大統領、米國赤十字社、國民慈善協會等ト數次意見交換ノ結果本事業ハ慈善事業ニ委スヘキ性質ノモノニアラスシテ當然政府ニ於テスヘキモノナルコトニ意見一致シ五月二十九日國防會議及同顧問委員會ニ對シ被召集者家族救護法成立ノ建言ヲ勞働委員會ニ附與セラレムコトヲ建言シタルニ許可セラレタルヲ以テ六月二十八日別居手當、戰時業務從業者傷害救護及戰死者遺族救護法研究ノ

爲一分會ヲ編成スルト共ニ更ニ七月一日起草委員分會ヲ編成シ大藏省、商務省、陸海軍省及勞働省ト
協調セシメタリ

二 衛生部會

衛生問題ハ各種工業關係者ノ間ニ既ニ四月五日以來絶エス論議セラレタル所ニシテ本委員部會ハ第一
著手トシテ戰時必需品生産時ニ危險作業ニ從事スル勞働者衛生ニ關シ小冊子ヲ編纂シ雇傭主ニ警告ヲ
發セリ

三 爆發物製造部會

目下提出準備中ナル爆發物製造委員部會報告ニ身體ノ清潔ヲ保ツ爲適當ナル換氣裝置ニ關スル建言、
疾病及傷害ヲ防ク爲洗濯所及上著ノ取換、食前洗濯等ノ要求、有毒物質ノ除去ノ爲ニスル身體検査其
ノ他機械ノ掃除等ニ關スル事項ヲ包含セシムル筈ナリ

四 點燈部會

當部ハ六月末迄ニ其ノ主事業タル工場點燈規則ヲ制定シ該規則中ニハ適度ノ光度、燈火配布、消燈設
備等其ノ他所要ノ條項ヲ網羅セリ

五 工業雜役部會

當部ノ關係スル工場範圍ハ極メテ多ク目下準備中ニ屬スル報告中ニハ次ノ諸題目ヲ包含ス

準備中ニ
屬スル報
告ノ内容

生産額、使用セラレタル勞力ノ指示器、雜役ノ勞力の試験、仕事ノ分類、速度ノ按配、不必要ナル

行爲ノ省略、適當ナル座席ノ設置、工場空氣流通法、工場内衛生狀態、晝勤夜勤交代從業時間ノ整
理、不用時間ノ削減、日曜勤務ノ廢止、工場外衛生等

六 溫度及換氣法部會

當部ノ事業ハ換氣法ニ關シ不適當ニシテ施行スヘカラサル州法ノ審議根本法ヲ確立スル爲國民的代表
者ニ依ル研究並雇主及勞働者ニ對スル初步的教育手段ノ必要及希望等はナリ

七 飲料水部會

當部ハ目下人工冷却法、氷中夾雜物、水ノ健康溫度(通常四十五乃至六十度トセラル)、健康維持ニ必
要ナル水量等ニ關スル建言案審議中ニシテ尙飲料井水ノ形式及其ノ他ノ要件等モ考量中ナリ

八 職業病部會

當部ハ職業病及毒素並如何ニセハ職業病ヲ除去シ又ハ輕減シ得ヘキカニ就キ報告作製中ニシテ此ノ報
告中ニ右ノ外尙種々ナル事項ヲ包含ス

九 家庭患者預所部會

目的
當部ノ目的トスル所ハ

一 全國製造工業疾病者看護事業ニ關スル報告ノ作製

事業

二 附添看護ヲ必要トスル者ニ對シ患者預所及米國公衆看護所ニ便宜ヲ與フル爲是等代表者ト直接通信ヲスルコト

三 勞働者利益ノ爲雇主ニ對シ公衆衛生看護員使用獎勵之カ爲

一 患者預所ニ關スル各種登錄ヲ作製、保存スルコト

二 時々患者預所ニ入りタル製造工業勞働者及其ノ家族ニ關スル報告ヲ蒐集スルコト、此ノ事ハ衛生局ニ裨益スル所多シ

三 委員ハ勞働者ノ請願ニ基キ各種勞働ト其ノ身體特ニ婦人及兒童ニ及ホス影響ニ關スル質問ヲ審議シ且右ニ關スル衛生課ノ研究ニ協力スルコト

右ノ外當部ハ終始醫務局公衆衛生看護委員及米國赤十字社看護委員ト協同シ又戰爭ニ關係ナキ業務ニ從業中ノ勞働者並其ノ家族ノ看護業務ニモ從事セリ

一〇 醫務監督部會

當部ノ目的トスル所ハ專門的工場醫務部ヲ設立シ之ニ依リ雇主ヲシテ各種衛生手段ニ關スル建言ノ價値ヲ知ラシムルニ在ルモ尙工業經營ニ對シテモ經濟的價値アルヘキモノトス

一一 工業教育部會

當部ハ特ニ戰爭ニ必要ナル熟練勞働者並其ノ補助工タル未熟職工及兒童、婦女等ノ教育ヲ目的トシ尙

任務及事業

戰後ニ於ケル此ノ種勞働整理問題ヲモ考究ス

當部ノ各州委員會ハ勞働者、雇主、軍需品關係工業及教育者等ヨリ成リ各州防務會ト協力スルモノトス

飛行機、飛行機用發動機、各種製造者及主ナル機械工業者ハ當部ノ共助ヲ要求セリ

一二 家屋部會

當部委員長ハ三月三日任命セラレ委員長ハ六月二十八日ヨリ全國觀察旅行ノ結果最已ムヲ得サル場合ニ於テノミ臨時構築物ヲ許可スルモ寢室、病室等ハ永久的ノ土臺、壁、屋根ヲ要スルコトトセリ

一三 休養部會

休養部ハ目下組織中ニ在リ

一四 公衆衛生教育部會

健康ノ保全、維持ニ關シ一般公衆ヲ教育スルニ特別重要ナル三要素ハ

一 當局者ヨリ發スル報告ノ配布

二 全國民ヲ等シク訓育スル爲全國ヲ通シテ爲ス一般教育

三 適當ナル職員及手段ヲ選ビ之ニ依リテ報告ヲ作製シ此ノ種ノ教育ヲ必要トスル各家庭ヘ之ヲ配布スルコト是ナリ

健康保全ニ關スル普傳法ハ熟練セル看護人ヲシテ各家ヲ訪問セシメ各家族ヲ訓育セシムルヲ以テ最有效ナル方法トシ此ハ訓育方法ヲ繼續シ且派遣者ノ報告ニ基キ專門家ヲシテ其ノ勤務ヲ補足セシメ且統一セハ此ハ種事業ハ必ス希望シタル結果ヲ齎シ得ヘク其ノ他活動寫真及適當ニ編纂セラレタル冊子ノ配布等亦用キテ利益ヲ得モノトス

要スル本委員會ノ目的トセル所ハ公衆衛生ニ關シ國民的行動ヲ計畫シ之カ實施ヲ期シ其ノ成果ノ完備充實ヲ計ル爲全米國民及各種協會等ノ協同動作ヲ喚起セムトスルニ在リテ此ノ種計畫ハ目下進行中ニ屬ス

一五 女工都會

當部ハ婦人労働者ヲシテ最大能率ヲ發揮セシムル方法ニ關シ諮問ニ應スル爲任命セラレタルモノニシテ當部ニハ八十五名ノ婦人委員ヲ有シ内三十五名ハ婦人労働者ノ代表者トシ他ハ労働問題專攻者ノ雇主代表者及一般公衆ナリ

當部ハ一般問題討論ノ爲隔月一回華盛頓ニ會合ス而シテ主要問題ノ一ハ婦女労働者ヲ以テ男子労働者ニ代位セシムルコト及其ノ過勞ヲ防キ且標準賃銀ヲ低下セシメサルコト是ナリ

當部ハ各州委員會ト協同シ各地ニ生スル國民的重要問題ニ留意シ政府ニ對シ報告ヲ爲スモノトス委員十三名ヨリ成ル實行委員ハ毎月一回會議ヲ開キ事業ノ大體方針ヲ定メ且各種ノ事業ニ關シ監督的

一般任務
委員ノ組織
事業

地位ニ立ツモノトス

目下計畫中ニ屬スル各州事業ノ重要ナル點ハ勞働法改正ニ助力スルニ在リ而シテ多クノ州ニ於テハ勞働時間制限ニ關スル法律廢止及州官吏ニ對シ一定條件ノ下ニ法律ヲ變更スルノ權限ヲ與フルノ傾向顯著ニシテ州官吏ニ對シ此ノ權限ノ與ヘラレタル州ニ對シテハ其ノ州ニ於テ認メタル除外例ヲ審議シ其ノ施行ヲ監視シ且此等ニ關スル報告ヲ作製セリ

一六 不熟練職工保護都會

軍需品工場ニ於テハ數千ノ不熟練工又ハ組合ニ屬セサル職工ヲ使用ス此ノ如キ狀態發展スルトキハ現時ニ於ケル勞働標準ヲ破壞スルカ如キ不幸ナル結果ヲ招致スヘキヲ以テ各工場並職業ニ就キ賃銀額ノ低下ヲ極力防止スルコト最重要ナリ尙注意スヘキ一般問題ハ左ノ如シ

一 無職業者ノ數、女工ヲ解雇シタル工場、女工ヲ必要トスル工場調査

二 工業新中心地へ婦女ヲ移送スルコト

面シテ當部ハ婦女移送ニ關シ未タ實際的活動ニ移ラサルモ一般狀態ノ之ヲ要求セルハ明ナリ抑米國ニ變來シタル最重要ナル經濟的變化ハ從來常ニ男子ノ爲シ來レル職業ニ女子ヲ使用セムトスルコトニシテ國防上二十一歳ヨリ三十歳ニ至ル男子百萬人以上ノ動員ハ非戰職業ヨリ男子ヲ奪取スヘク之ニ基ク工業損害ハ何等計算セラレタルモノナシト雖多數男子地位ノ缺陷ハ既ニ婦女ニ依リテ補充セラレ此ノ

主要事業

狀態ノ繼續ハ爾後數箇月間ニ非常ナル勢ヲ以テ進行スルハ疑ヲ容レサル所ナリ此ノ變化ヲ生シ又ハ生スヘキ各種職業ニ關シテハ早晚報告ニ接スヘキモ當部ハ特ニ婦女ノ健康及仕事ノ適不適ニ注意スルノミナラス婦女ニ關シテ生シタルトキハ委員ハ直ニ其ノ原因ヲ探究シ毫モ仕事ヲ中斷セシメスシテ正當ノ判斷ヲ與フルニ努メタリ又同盟罷工ノ場合ニ於テハ委員ハ勸解官吏ニ詳細ノ報告ヲ爲スモノトス

各州委員モ亦以上列記ト同種ノ事業ニ從事スルモ未タ何等報告ニ接セス

第七節 自動車輸送委員會

本委員會ハ英國軍需大臣代表者ト數回協議ヲ重ネ大英國自動車技術協會及米國發動機技術協會ヲ經テ英國自動車製造額增加案並耕作自動車ノ設計、製造及應用等ノ問題ニ關スル提案ヲ爲シ野砲ニ發動機ヲ附スル件ニ關シテハ英國陸軍ノ經驗及佛蘭西ニ於ケル軍事輸送並牽引動力ノ諸狀態ヲ調査シ屢當局ト打合ヲ爲シタルカ議論ノ要點ハ如何ナル型式ヲ使用スヘキカニ在リ又陸軍省ノA級及B級運搬自動車ニ對スル仕様書ニ就テハ兵站部ト協議ヲ重ネタリ

軍用運搬自動車 陸軍省ト發動機技術協會トノ間ニ於ケル永久の協力結果ハ遂ニ軍用運搬自動車ノ仕様書發表ト爲リ七月十日市俄古ニ於テ入札ヲ舉行スルコトト爲レリ

標準軍用運搬自動車ノ採用 米國ノ主ナル自動車製造者ノ代表者十五名ハ發動機技術協會ノ幹旋ニ依リ

五月本委員會事務所ニ集會シ經理局ノ要求ニ係ル軍用運搬自動車特別裝置ニ關シ審議セル結果完全ナル標準ヲ完成シ之ヲ統一シ且各技術者ノ満足スル迄各機械、器具型式ヲ統一シテ其ノ費用ヲ節減シ比較的僅少ナル原料ヨリ經濟的多數生産ヲ圖リ政府ノ爲多大ノ經費節減ヲ爲スト共ニ技術者ニ對シテハ其ノ勞力ヲ集中シテ一層重要ナル進歩ヲ遂クルヲ得セシメタリ

航空計畫ニ參與 本委員會ハ政府ノ航空計畫ト常ニ密接ノ關係ヲ持續シ發動機技術協會ハ標準委員會航空部員ト常時相通信セリ

耕耘動力車 本委員會ハ原料及機械工具ノ供給ヲ増加シ以テ農工業ノ需要ニ格段ノ注意ヲ喚起シ農產物ヲシテ合衆國ニ於ケル本年ノ食料生産ニ對シテ貢獻スル所アラシメタリ

積載量統一 動力車統一事業ニ關聯シテ發動機技術協會及經理局幹旋ノ下ニ一重要會議開催セラレ運送及製造業代表者三十名之ニ出席シ晝夜二日間議事ヲ繼續シ其ノ積載量統一ニ關シ満足ナル進歩ヲ見次テ此ノ會議ヲ動機トシ六月ニ入り政府ト取引ヲ希望スル車臺、車輛、機關等ノ製造業者ハ悉ク本委員會ノ召集ニ應シ集合シ再ヒ三日間ニ互リタル會議ヲ繼續セリ

其ノ他 自動車轉車製造者ハ六月二十八日前記委員並發動機技術協會ノ協同的主催ノ下ニ會議ヲ開キ軍用自動車轉車ノ一定部分ニ對スル標準型式ノ成就ニ一歩ヲ進メタリ

發動機及附屬品製造業者協會ハ委員會ト協力ノ爲副委員ヲ組織シ會員ノ製作スル各種製品ニ關スル權限

第八節 醫事總務部及醫事課

第一款 醫事總務部

編成シタル各種委員會

醫事總務部ハ下ノ如キ各種委員會ヲ組織セリ即チ實行委員會、各州活動委員會、試驗委員會、衛生委員會、研究委員會、齒科委員會、醫學校委員會及病院委員會等是ナリ而シテ是等委員會ハ醫事總務部ノ公任委員以外華盛頓在住有志者ノ助ヲ藉リタルコト多シ

議事事項

醫事總務部會議ハ當初ハ每週之ヲ開キタルモ後ニハ數週一回トシ會議議事事項ハ一般醫務方針ノ討議、委員報告ノ受理、審議等ニシテ會員ニアラサル者ノ戰時醫事問題ニ關スル意見ノ提出ヲモ歡迎セリ此等種々ノ報告ハ更ニ實行委員會之ヲ詳細ニ研究シ決定ヲ見タルトキハ委員長ノ委員トシテ屬スル國防會議顧問委員會ニ提出スルモノトス

總務課第一次會議

醫事總務部ノ第一次會議ハ千九百十七年四月十九日開催シ當日ハ單々種々委員ヲ任命シテ閉會シタルモ第二次會議ニ於テハ「アルコール飲料ノ制限及花柳病問題」ヲ審議シ軍事當局者ニ對シ援助ヲ與ヘタルコト尠ナラサルノミナラス毒藥除去ニ關スル一層有力ノ方法ヲ就キ建議シタルコト多カリキ

醫學校委員ノ事業

醫學校委員ハ本會議ニ於テ其ノ第一回報告ヲ提出シ且立法委員會ト連絡ヲ取り教育機關ノ不當ナル學年短縮ハ醫學教育上不利ナルコトヲ信セシムルコトヲ得ルニ成功シ醫學校卒業生ヲ軍醫トスルノ教育ニ

力ヲ致セザル

供給品ノ統一

病院委員ハ供給品統一ニ關スル重要問題解決ニ著手シタルカ其ノ難點ハ軍ニ標準ノ統一ノミナラス商品タリ又製造中ニ屬スル重要材料中使用シ得ヘキモノヲ決定スルノ點ニアリ其ノ努力ノ成功ヲ收メタルコトハ米國ノ醫療機械力平時ニ於ケル供給額ノ八割ヲ減シ且需要ハ十倍ニ激増シタルモ時局ニ何等不都合ヲ生セス製造者ハ軍國並民國ノ需要ヲ充タスニ十分ナリシ事實ヲ以テ之ヲ知ルコトヲ得ヘク病院及實驗室用品、X光線機械及附屬品、藥品、防腐劑、消毒劑等ニ就テモ均シク良好ノ狀態ヲ持セリ

主要研究問題

研究シタル主要問題 一見重要ナラサル專門的細目問題ニ就テモ最周到ノ研究ヲ爲セリ即チ強爆藥ノ震動ニ對スル耳ノ保護、赤痢菌ノ培養的反應、適度ノ移動、X光線裝置、發砲ノ震動現象、毒瓦斯覆面具ノ改良及製造、燃燒用「バラフィン」混合物ノ適當ナル形態等是ナリ此ノ外一層廣汎且深遠ナル問題即チ士卒ノ心臟、脈管疾患及肺結核、身體虛弱ノ兵籍者ヲシテ健康ヲ回復シ又ハ從前ヨリモ有要タラシムル取扱方法、戰爭不具者ノ回復、整形、是等不具者、聾盲者及傷兵ノ再教育等ヲモ研究セリ

第二款 醫事課

醫事課ノ組織關係及十二事業綱目

醫事課ハ醫事總務部ノ監督ヲ受ケ國防會議ニ隸屬スルモノニシテ其ノ職務ニ關シ十二綱目ヲ定メタリ即チ次ノ如シ

一 民醫ノ調査

二 陸海軍、公共衛生及赤十字醫員ノ調査

三 外國ニ於ケル醫療術ノ進歩及其ノ缺點ノ研究

四 醫療上ニ於ケル研究獎勵

五 民醫ノ價值、數、利用及能率ノ増進

六 陸海軍、公共衛生及赤十字醫員ノ價值、數、利用及能率増進

七 各方面ノ協同的活動

八 人民ノ戰後福祉ノ準備

九 軍隊還送後ニ於ケル流行病ノ豫防法

一〇 俘虜ノ流行病携帶豫防法

一一 人民ノ食料品、飲料水汚染豫防法

一二 汚損セラレタル場合ニ於ケル防止方法等

醫事課ニ於ケル第一段ノ事業ハ民醫ノ調査ニシテ次ニ述フル所ノ如シ

民醫調査
法及其ノ
結果

米國ニ於ケル醫師數ハ戰爭ノ必要ニ應シ尙餘リアルモ唯問題ハ公醫タルヘキ意思ノ有無、軍醫タルノ資格、道德的及智識の適格及此等智識的及職業的最適任者如何ニ在リ仍テ醫事總務部ハ各州活動委員ノ

外國ニ於
ケル醫療
術ノ調査

手ニ依リ全米國醫師ノ實狀ヲ調査シ是等醫師ニ對シ種々ノ方法ヲ以テ奉公ノ精神ヲ鼓吹シタル結果約二萬人ノ公醫ヲ選拔シテ政府ノ命ニ依リ醫療的活動ニ從事セシムルコトトシ且特ニ優秀ノ醫師ニ對シテハ陸海軍軍醫總監之ヲ其ノ専門的智識及技能ヲ要スル適所ニ就カシメタリ

又外國ニ於ケル醫療術ノ進歩及美點ノ調査ニ關シテハ參戰當時聯合軍ノ爲戰線ニ在リタル三百餘名ノ軍醫ハ夫々自己ノ經驗觀察ニ基ク報告ヲ提出シタルヲ以テ委員會ハ其ノ範トスヘキ點ヲ精査シ別ニ又少數ノ専門家ヲ外國ニ派遣シテ其ノ研究觀察ノ結果ヲ報告セシメタリ而シテ此等報告ハ總テ十分ノ討議研究ヲ經タル上陸海軍醫務局及公共衛生局ニ回付シテ其ノ最後ノ判定ヲ乞ヘリ

病院ノ調
査

病院ノ調査其ノ他 醫事課ハ米國ニ於テ利用シ得ヘキ各病院ノ院名簿ヲ作製シタルカ之ニ依リテ病院ノ職員、醫療の特徵及必要ノ際政府ニ貢獻シ得ルノ目的ヲ明ニスルコトヲ得タリ而シテ此等病院ノ専門家及醫療品ヲ減少セサシムルニ注意シ一般人民ノ適當ナル醫療上ノ必要ヲ缺カシメサルコトヲ得タリ又看護人ニ關シテモ均シク注意ヲ加ヘ米國赤十字社及國民看護協會ト協力シテ其ノ目的ヲ達シタリ國家ノ公醫ハ普通人以上ニ犧牲的精神ヲ發揮シタルカ故ニ醫事課ハ料金ノ分配ヲ以テ此ノ不平均ヲ償ヒタリ要スルニ醫事課ハ以上各方面ニ互リテ軍隊、醫師及一般民衆等ニ對シ貢獻シタルモノト謂フヘシ

以上

米國國防會議議長 陸軍卿 署名

米 國 國 防 會 議 及 同 順 問 委 員 會 放 同 部 屬 委 員 會 編 成 表

